

maturity

マチュリテイ

2018-JAN

106

公益社団法人 日本産業退職者協会

JARP

maturity

“人格、才能の豊かで円熟”の意味

“第二の人生のために”

無為の人生は自らその老いを早め、
孤独の余生は座して終わりを待つに等しい。
進んで生きがいを求め、友と苦楽を共にし、
天寿の日々を悔いなく生きたい。

高齢化が急速に進むなかで、我々は長年培った能力と、豊かな経験を生かして、第二の人生を生きがいあるものとし、社会の活性化に寄与しよう。

企業・団体の理解と協力を得て、高齢者による産業界の新しいコミュニティを創造し、21世紀における活力あるマチュリティ社会を目指そう。

お願い

私たちは東日本大震災および熊本地震の被災者の方々に、ささやかながら支援を行ってまいりましたが、引き続きこの募金活動を継続して参りますので、どうかご協力のほどよろしくお願い申し上げます。

郵便為替 口座番号 00130-3-139353
加入者 公益社団法人 日本産業退職者協会

恐れ入りますが、振込手数料はご負担願います。
払込取扱票の通信欄に、東日本大震災宛か、熊本地震宛かをご記入ください。

公益社団法人 **日本産業退職者協会 (JARP)**
理事長 湯藤 哲

目次 **maturity** 2018年／第106号

年頭所感	新年のご挨拶	湯藤 哲	2
特集	富岡製糸場の歴史 未来に残す近代産業の礎	佐野 公哉	4
ふれあい トークサロン	第32回 数にまつわる不思議な話	地畑 健吉	12
会員対策活動	みなさんで新入会員を増やしましょう！	会員対策委員会	18
社会貢献活動	当協会の社会貢献活動について	山鹿 素雄	19
	『かがやきサロン杉並』2017年下期の活動報告	満田 将太	20
個人会員親睦会	はつらつふれあいの集い		21
マチュリティ 談話室	古代史への夢	尾利出 收	24
	天神川の川面にいつまでもいつまでも	坂井 進	24
	読書のすゝめ	鶴岡 通敏	25
	後世に伝えたいこと	藤登 弘雄	26
	これまでの10年、これからのX年	見並 勝佳	27
読書案内	「週刊読書人」の編集長がすすめる本	明石 健五	28
ひとこと 「今年のご目標」	石川義明／岩渕芳夫／江中共治／遠藤徳一 大友 彰／尾形雅美／倉片厚子／黒坂貞子 塩山哲郎／下江英昭／谷合幸江／豊田和子 長田 実／濱田 寛／松本 浩		29
イベントだより	囲碁会／江戸東京歴史散歩の会／園芸クラブ 鎌倉探訪／カラオケ会Ⅱ／サロンコンサート 四季の会／詩吟会／自然を楽しむ会／水墨画教室 竹とんぼ同好会／男声合唱クラブ／築地海鮮井川柳会 デジカメクラブ／歴史を考える会		31
行事日程のご案内	第14回チャリティコンサート・はつらつふれあいの集い		40
首都圏だより	神奈川会／京葉会／埼玉会／西東京会		41
広島支部だより	「何でも見てやろう」の精神で	新延 伸雄	46
損保懇だより	第30回 損保OBの集い	佐藤 嘉恭	47
役員名簿／編集後記			48
法人・団体 会員名簿			

表紙写真／「出帆」（帆船日本丸・横浜みなと博物館にて）菅克之
裏表紙（会員作品）／馬和彦／鈴木新太郎／小林加代子（広島）／寺田耕三（広島）

年頭所感

新年のご挨拶



公益社団法人 日本産業退職者協会

理事長 **湯藤 哲**

新年あけましておめでとうございます。日頃より、当協会の活動につきましてご理解・ご協力を賜わり厚く御礼申し上げます。

当協会ではこれまで三つの指針に沿って活動してまいりました。一つは自立、一つは支えあい、一つは認知症に対する対応です。年の初めにあたりこれまでを振り返ると同時に、本年の活動方針について申し上げます。

私たちの生涯を就学期、就労期、退職期に分けてみた場合、過去30年の間に、退職後の期間が大幅に伸びて、以前の環境下で設計された社会保障制度では今後の高齢化の進展に対応できなくなるのではないかとの危惧があります。1人1人が自立して、長くなった期間の健康、経

済、住居環境や人との交流・交歓等をどう設計して行けばよいのか、特に社会保障制度に地域の力を活用する「地域包括ケア」制度が導入されたことに伴い、居住地域における自治体や住民とのつながりを深め、同時に自立の大切さが求められる時代において、新しい取り組みが必要になってまいりました。

こうした地域住民とのお互いの親睦やネットワーク作りの一助として私たちは首都圏において、神奈川県、埼玉県、東京都及び京葉会を設け、それぞれの地域会会員のつながりを深め、きめ細かい連絡網を作って交流を深める努力を重ねています。

本年も1人でも多くの方々にご参加頂きたいと考えています。

長寿を支える家計の現状について、総務省の行った平成28年度家計調査によると、高齢者夫婦の家計は平均で毎月手取り18万2980円、支出で23万7691円と5万4711円の赤字になっていきます。これを参考例として、家計の見直しを進め、冗費の節減や貯蓄の一部をシフトして投資収入の増加を図るなど個々の実情に合わせた生活設計が必要です。当協会では折々の金融情勢に応じて、専門家による講演会やマチュリティ誌上で関連記事を掲載するなどして参りましたが、本年もさらに充実した情報をお届けして行く予定です。更に、前出の調査によれば、高齢無職世帯の持ち家比率は94・2%に達しており、その資産価値を老後の生活にどう活かすのか、相続か、売却して施

設入居するのか、介護付き住宅に入るのかなど、環境に合わせて最適な選択肢をとるために協会の生活情報委員会では過去数度に亘り講演会を開催し、テキスト『高齢者向け住まい&介護に備える入門ガイドブック』の頒布もしております。

健康増進については多くの野外イベントを通じて、参加者の健歩活動に役立てていただいております。いずれもベテランの世話役がご案内しておりますので、どうぞお気軽にご参加ください。また、従来から認知症予防活動にも取り組んでおります。社会貢献活動委員会では「きただわサロン」を通じて高齢者との交流を深めています。同時に、認知症を専門とする先生方のご協力を頂き、医学的な立場からのご説明や対応の方法などについて「ふれあいトークサロン」の場等でご講演をいただいております。今後とも、この問題について対応を拡充してまいりたいと存じます。

高齢者にとって人びととの交流・交歓は欠かすことのできないものであり、講演会やイベント活動はそのためにあると言っても過言ではありません。年に一度の個人会員親睦会では、開会を祝して、

竹トンボ同好会の末松さん作成になるパタパタ織が糸を引くと同時に天井からスルスルと降りてきて盛り上がります。出し物も手作り感あふれる内容で会員同士の団らんの花が咲きます。これまでご参加されていない会員の皆さまにも、本年はぜひお出かけくださいませようお誘い申し上げます。

ここで、個人情報の管理・徹底についての取り組みについてご報告します。私たちは公益社団法人として、倫理を重んじ、コンプライアンス（法令遵守）を心がけて来ましたが、昨今の社会情勢に合わせて、広くその精神を公表して社会的信用を高めるべきであるとの認識が高まりました。そこで、昨年10月に開催された理事会において、倫理規程及びコンプライアンス規程を制定すると同時に、個人情報保護法の改正に基づいて、保有情報を適切かつ安全に取り扱うべく個人情報保護規程を決議いたしました。これらの規程は順次協会ホームページ等で公表してまいります。引き続き内部管理体制を整備・維持して行く方針です。

最後に、私たちの活動の中で音楽が大きな役割を果たしていることに触れてお

きたいと存じます。協会のイベント活動の中に「サロンコンサート」があり、既に43回を数えています。私自身、先輩から世話役を引き継ぎ、出演者や会場提供をしてくださる方の好意に支えられ、多くの方々に午後のひとときを楽しんでいただいております。また、既に13回を数える恒例の「チャリティコンサート」では出演者の素晴らしい演奏を聴いた後に、ご招待した施設入居者の方々と共に合唱して音楽の楽しみを分かち合っています。広島支部ではエリザベト音楽大学のご支援を頂き市民にも開放された演奏会を開催しています。また、世代間交流を進める「かがやきサロン杉並」でも毎回コンサートをプログラムに入れております。

英国のロックバンド「ローリングストーンズ」のミック・ジャガーは74歳になる今も現役で演奏を続けており、コンサート初めに「トシの話は今夜はなし」とジョークを飛ばし、熱気を帯びたパフォーマンスで聴衆を沸かせています。

皆様には本年もミック・ジャガーのパイタリテイにあやかってお元気で過ごし頂き、様々な協会活動にご参加・ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

富岡製糸場の歴史 未来に残す近代産業の礎

片倉工業株式会社 代表取締役社長 佐野 公哉

富岡製糸場は、1872（明治5）年、明治政府の一大事業として官営で操業後、1893（明治26）年に民間に払い下げられ、三井家、原合名、当社へと譲渡されました。当社は、1939（昭和14）年に原合名から譲り受けてからの66年間、民間最後のオーナー会社として富岡市へ寄贈するまでの間、富岡製糸場とともに歩んでまいりました。

現在では、世界遺産に登録され、明治時代の産業遺産として知られている富岡製糸場ですが、今から約30年前1988（昭和62）年まで、戦中の混乱期も途切れることなく、高品質な生糸を製造するため、立派に稼働していました。

今回は、富岡製糸場をお話するせっかくの機会をいただきましたので、富岡製糸場の遺構についての話というよりは、未来に残す近代産業の礎となるために関わった人々について

てご紹介したいと思います。富岡製糸場に訪れた際は、建物の素晴らしさに加え、これからお話しする官営期からの創業精神や日本の近代化に果たした役割等、明治期から115年休むことなく操業続けた歴史を少しでも感じ取っていただければ大変嬉しく思います。



富岡製糸場錦絵

●富岡製糸場設立の背景

まずは、富岡製糸場がなぜ設立されたか、

その背景を少しお話しましょう。

1859（安政6）年、横浜港が開港し、外国との貿易が始まり、産業革命を終えたヨーロッパでは、シルクの機械織りが急成長し生糸のニーズが増大しました。しかし、蚕の病気が大流行したため、生糸の生産が追いつかず、日本からの輸入に頼らざるをえない状況となります。一方、日本では輸出が急増した結果、質の悪い粗悪品が大量に出回ることとなり、生糸の品質向上と大量生産が課題となりました。

そこで、富国繁栄・殖産興業をめざした明治政府は、外貨獲得のため生糸の輸出を国策のひとつとし、製糸産業の育成をはかることを決めます。ここから日本近代化の礎となる富岡製糸場が誕生するわけです。

明治政府は、日本近代化のモデルとしてフランス人技師ポール・ブリユナの指導のもと、西洋技術を取り入れ、官営の器械製糸工場を建設し、全国から工女を募集し模範工場として稼動することとしました。伝習を終えた工女たちが出身地へ戻り、器械製糸の指導者となることで全国各地に良質な生糸が生み出されるわけです。富岡製糸場は、日本の製糸産業を育成する重要な役割を担っていました。



■佐野 公哉 (さの きみや)
片倉工業株式会社 代表取締役社長

1950年山梨県生まれ。明治大学農学部卒。1977年片倉工業株式会社入社。入社後、主に小売事業に従事。2010年執行役員小売事業部長、2011年執行役員経理部長、2013年常務取締役を経て、2015年代表取締役社長に就任。

当時の設立に関わった人々に目を向けてみると、富岡製糸場にかける先人たちの想いが伝わってきます。

●「日本に、器械製糸工場を建設する」

この建設推進の中心人物は、誰もが知る明治時代の偉人、日本資本主義の父ともいわれた「渋沢栄一」でした。当時、外国の資本導入による器械製糸場の建設が迫られる中、明治政府は、外国からの器械製糸場設立の提案を受けず、国策とし日本独自に製糸工場を建設することを決意します。そして、製糸工場建設の基本構想が固められ、西洋の技術を取り入れる為に蚕糸業に知識の深いフランス人技師ポール・ブリュナが指導者となります。

ポール・ブリュナは建築士ではなかったため、工場の設計は、当時日本の近代化を担っていた横須賀製鉄所の設計経験のあるフランス人技術者オーギュスト・バステイアンによって作られました。

その設計図を元に、富岡製糸場を建設するわけですが、当時の日本は明治の初め。西洋の建築技術の専門家などいるわけもなく、建設作業は何もかも始めての試みです。主要な建物は、木を骨組みに煉瓦で壁を積み上げる「木骨煉瓦造」（大きな木の柱で屋根の重さをしっかりと受け、柱と柱の間に煉瓦をつめて壁にする方法）といわれる西洋の建築方法ですが、屋根は日本瓦で葺くなど和洋融合の建築構造でした。

建築物であつたかわかるかと思えます。

では、西洋建築技術のない当時の政府は、どのようにして富岡製糸場を建設したのでしようか。建物の主要資材は、石、木、煉瓦、瓦です。その建設に尽力した人たちがいます。

●富岡製糸場初代場長 尾高惇忠、建設

資材調達のとめ役 葎塚直次郎

「尾高惇忠」は、建築資材をどう調達するか奮闘した人物ではありますが、そもそも製糸工場をどこに建設するか、敷地の選定に関しても指導者ブリュナとともに各地を歩き回った人物でもあります。武蔵、上野（こうづけ）、信濃の地域を調査し、最終的に上野の富岡の場所に決定しました。その理由は、

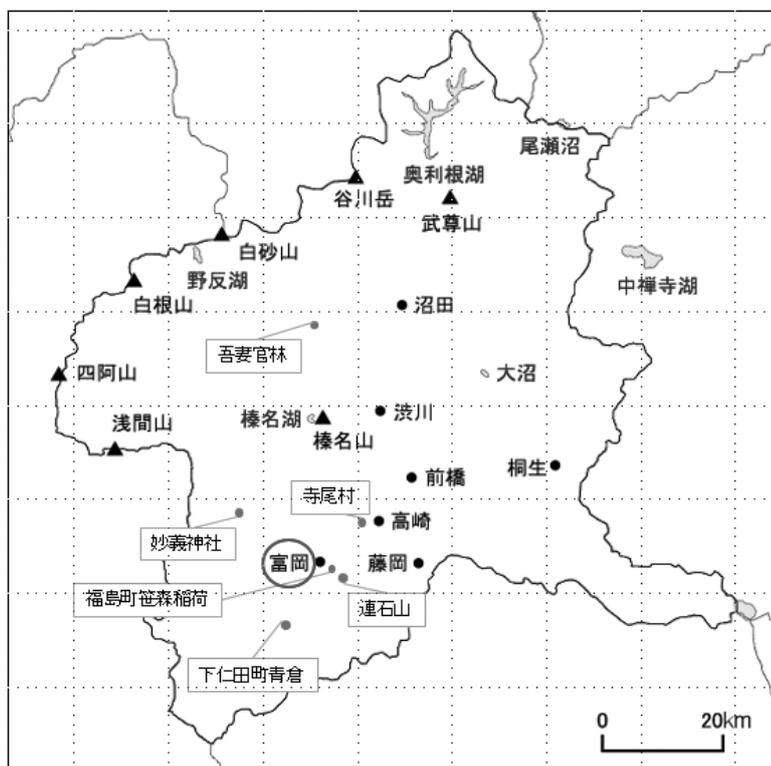
- ①養蚕が盛んで、生糸の原料である良質な繭が確保できること、
- ②広い土地が確保できること、
- ③既存の用水を使って水が確保できること、
- ④製造した生糸を運び出す蒸気機関車の燃料である石炭が近くの高崎・吉井で採れたこと、
- ⑤外国人指導の工場建設に対して地元の人たちの同意が得られたことでした。

驚くべきことは、富岡製糸場が約1年半という極めて短い年月の間に建設されていることです。同じように赤煉瓦を使用し日本を代表する建築物である東京駅の開業は1914（大正3）年。1872（明治5）年に操業を開始している富岡製糸場が、いかに先駆的な

資材調達に関しては、ガラス窓等はフランスから輸入されましたが、主要なものは全て現地で調達されています。明治政府は、西洋

技術を駆使した建物を国内でつくることに国の威信をかけていました。中心となる材木の杉は、妙義山から、松は吾妻の官有林から、小材は近傍山林で集めました。磁石となる石は、連石山（現甘楽町）から切り出して造られます。

富岡製糸場の象徴である赤煉瓦については、「葦塚直次郎」がフランス技師バステイアンから煉瓦の素材や性質を聞き、材料である粘



土探しからはじめたといのですから、非常に苦労した様子が伺えます。葦塚直次郎は、福島町（現甘楽町福島）の笹森稻荷神社付近に適した粘土を発見し、その周辺に窯を築き、試行錯誤の末、瓦と共に大量に焼き上げることに成功しました。

煉瓦を積む際の目地には、モルタル（セメントと砂を混ぜたもの。当時の日本ではセメントが製造されていなかった）のかわりに下

仁田町青倉の石灰を主材とした漆喰を使用しています。漆喰に関しては、尾高惇忠がセメントに近い強度のものを作るため、左官職に依頼し試行錯誤の上、従来のものよりもはるかに強度のある漆喰を完成させたそうです。

地図をみてわかるとおり、全て富岡周辺であったとはいえず、多数の地から富岡へ運び込むことは、明治初期当時のことですから想像をはるかに超えた大変な作業だったと思われる。約1年半という短い工期で設立された富岡製糸場ですが、長年建物が残ってきた理由の一つは、当時建設に関わった

人々が、尽力したおかげでしょう。

●富岡製糸場の工女たち

富岡製糸場は、建物もちろん立派ではありませんが、日本の近代化の礎を担ってきたのは、その生糸を紡いできた工女たちです。外国人が飲む赤ワインを「生き血」と恐れれたことから、外国人が指導する富岡製糸場の募集は難航したといわれていますが、伝習生として全国各地から富岡製糸場へ働きにきた工女たちは、500名を超えていたといえます。そのほとんどが10代後半〜20代前半です。彼女たちは後に出身地で指導者となるわけですが、その年齢で使命を背負って富岡製糸場に来た彼女たちの決意ははかりしれないものであったと思います。信州松代藩出身の和田（横田）英は、工女の中でもトップである「一等工女」に選ばれ、一心で勉強してきたかいたったと、天にも上るような喜びようを、後に「富岡日記」に書き記しています。

富岡製糸場は、日本初の工場制度を導入しており、就業規則や給料制度（年功序列ではなく、能力給）、産業医制度があり、就業時間や休暇なども整備され、良好な労働条件が整っていました。「ああ、野麦峠」でいわれ



富岡製糸場

るような女工哀史はここにはありません。読み書き、算術、習字、裁縫などの教養習得の学びの場もあり、それは当社が譲り受けてからも片倉学園として継続されています。

●富岡製糸場の変遷

器械製糸の普及と技術者の育成という当初の目的が果たされた頃、官営工場の払い下げの主旨により、1893（明治26）年に三井家に払い下げられ、その後、1902（明治35）年には原合名会社に譲渡。御法川式多糸

練糸機による高品質生糸の大量生産や、蚕種の統一などで注目されました。そして、1939（昭和14）年、当時日本最大の製糸会社であった当社（当時、片倉製糸紡績株式会社）が譲り受けることとなります。

「この由緒ある工場を永遠に存置せしむる為、外に委任するべきところなし」

当社が富岡製糸場を譲り受けた際、残された言葉として富岡製糸所史に記述されています。明治政府の国策として製糸業を育成するために威信をかけて建設した富岡製糸場、そこで学ぶために全国から親元を離れ富岡製糸場で働いた工女たち、先人たちの富岡製糸場への想いを知ると、大変恐れ多い言葉ではありますが、とても誇りに感じる言葉でもあります。

●片倉家、歴代社長の富岡製糸場に対する想い

当社の創業は、1873（明治6）年。富岡製糸場が操業した翌



2代目社長 今井五介

年に、長野県諏訪郡川岸村（現岡谷市）の天竜川のほとりにある家の庭先で10人取の座練製糸から始まりました。創業者である市助の元で長男兼太郎、次男光治、三男五介（今井家へ養子）、四男佐一の4人兄弟が力を合わせ、事業を拡大していきます。創業者である片倉家にとって、富岡製糸場の近代的な設備、西欧の器械製糸技術や新しい工場制度は、「驚き」と「憧れ」があったのではないのでしょうか。富岡製糸場が民間へ払い下げが決まった際、片倉家は、いち早く手をあげましたが、残念ながら政府の予定額に達せず不調に終わっています。二度目の入札でも願いが叶わず、そこでは三井家に払い下げられてしまいました。それから原合名会社へと受け継がれ、当社が経営を委託されたのは1939（昭和14）年のことでした。ようやく憧れの富岡製糸場を手にした瞬間でした。当時、当社は片倉製糸紡績株式会社と名乗り、社長は2代目、創業者市助の三男今井五介の時でした。

富岡製糸場の話から少し話は逸れてしまいますが、当社が富岡製糸場を譲り受けた所以である創業家が行ってきた製糸業について少しお話ししたいと思います。

●高品質な生糸をつくるために

①蚕の研究

皆さんはメンデルの遺伝の法則をご存知かと思いますが、優性の法則を蚕に応用し、動物でも成立すると証明した遺伝学者に「外山亀太郎」がおりました。性質の異なる両親のこどもはいずれの親より優れた性質をもつ「雑種強勢」を提唱しました。この研究に着目し、粗悪な繭を出回ることを防ぐために優良な蚕の研究を進めたのが、富岡製糸場を譲り受けた際の当社社長今井五介です。五介は、アメリカへの留学経験もあり国際的な知見のある先見の明をもった経営者として当社では語られております。

1920(大正9)年、大日本一代交配蚕種



大日本一代交配蚕種普及団

普及団を長野県松本市に設立し、全国に優良繭を普及させるため蚕種統一運動を開始します。日本では蚕の種類や育て方に一定の基準がなかったため、不揃いな繭からできる生糸は品質が悪かったのです。五介は、太平(日本種)と長安(中国種)の蚕種をかけ合わせた優良な一代交配蚕種の生産に成功し、養蚕農家へ無料配布し指導をおこなう一方で、農家が生産した繭を買い取ることで、優良繭の生産・普及につとめました。

●高品質な生糸をつくるために

②御法川多条繰糸機の普及

五介が取り組んだのは蚕種の研究だけではありません。後の製糸工場の効率と品質を格段にあげる機械化に貢献します。繭から糸を引き出し、数本引きそろえて一本の糸にすることを「繰糸」と言いますが、その効率を高めるためには、繰糸スピードを上げるか、生糸を巻き取る小枠(条数)を増やすかのどちらかでした。明治半ばには、動力がついた製糸機械が誕生し、1人が2〜4条を繰糸するようになり、繰糸速度も1分間200m(300mと速くなります)。スピードが速くなったことで繰糸の効率は高まったものの、

糸の切断回数が増え、質が低下してしまいました。良質な蚕種を育てても、生糸を繰る機械が良くなければ、高品質な生糸は生産されません。

そこで五介は、「御法川直三郎」が考えた御法川多条繰糸機に着目し、彼の研究所に通い始めます。御法川多条繰糸機は、蚕が糸を吐くような低速で糸を巻き取れば、品質を損なわない生糸ができると仮定し、速度を従来の5分の1とした代わりに生糸を巻き取る小枠(条数)を5倍の20条に増やし、今まで座って作業していた繰糸作業を立つて行うことで、効率よく生糸を生産する機械でした。この機械を自社工場に試験的に導入、この機械で製造された生糸はアメリカにわたり、「片倉ミノリカワ・ローシルク」として注目を浴びることとなります。

製糸工場の機械は、この多条繰糸機が一般的となり、昭和初期には当社でも独自で研究を重ね、「世界の多くのの人に良質の

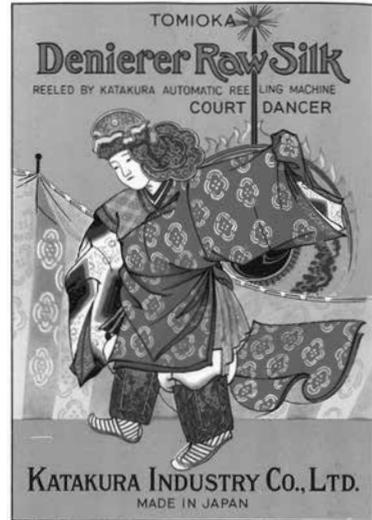


御法川多条繰糸機

生糸を」という強い思いから、のちに富岡製糸場にも繰糸作業の大部分が自動化された自動繰糸機というこれまでにない機械を導入しました。これにより、飛躍的に作業効率が上がり、大量生産が可能となりました。一部の特権階級のものであったシルクは、世界中の人の手に届くようになりました。（誤解のないように補足いたしますと、現在の富岡製糸場に残留する繰糸機は、残念ながら当社製ではなく日産製です）

かくして当社がのちに生糸ブランドとして高品質と謳われる様になったのは、これらの「優良な糸をつくる蚕種」と「良質な糸を繰る機械」の研究・改良があったからこそといえます。

●高品質「片倉ミノリカワ・ローシルク」の証明 生糸商標



商標 富岡工場 コートダンサー

にも商標が入っており、この商標が入っていることでこの生糸は高品質であると判別されるほど、当社の品質保証の一つにもなっていました。もちろん富岡工場にもこの商標があり、当時当社が使用していた商標はこちら（写真左上）になります。原物は、カラー刷りのとても色鮮やかな商標です。各工場異なるデザインの商品が多くあり、動物や植物、その地方の特産品など、デザインは多岐にわたり、非常に興味深いものです。私自身、この商標に魅了されるどころがあり、いつかこの商標を集めて整理したいと考えています。

様々な生糸商標（ラベル）



●操業停止後 18年間守り続けた想い

製糸業は、どんどん拡大し生糸の生産量はピークを迎えます。1939（昭和14）年には、日本の輸出の4割を生糸が占め、そのうち富岡工場とその他当社工場のシェアで1割ずつ、実に全輸出の約8%を一企業が担っており、戦時中は、丈夫なパラシュート（落下傘）をつくる為の生糸を製造していたこともあり、戦後は、再び外貨獲得のため製糸業が再注目されますが、ナイロン、レーヨンなどのいわゆる化学繊維の台頭、安い中国生糸の輸入などにより、日本の製糸業はその後衰退することとなります。それは富岡工場も例外ではありません。そして、しかしながら、その生産量は明治



富岡工場 閉所式 当社第11代社長柳澤晴夫

初期官営時代の実に84倍だったといわれています。

国内の生糸生産の需要が縮小し、1987（昭和62）年3月に富岡工場は休止することとなります。当時の社長柳澤晴夫は、閉所式で次のようなコメントを残しております。

「生糸製造を休止しても、この歴史的・文化的価値が高く貴重である、と評価されているこの建物・諸施設、及び操業以来の当工場関係者の富国繁栄、殖産興業に心血を注いでこられたその意気盛んな心が、今後も脈々と受け継がれ、この工場が物心両面で若々しく活気をもって生き永らえていくよう、今後の管理・運営を図っていく考えであり、単なる遺物とか見せ物としておくつもりはありません。」

当社が全国各地で操業してきた製糸工場は、ショッピングセンター等に有効活用され、富岡工場を除いては、形として残っている工場は一つもありません。テーマパークや観光地にしたかどうかという提案もありましたが、当時の社長柳澤の言葉からもわかるように、当社には建物がもつ歴史や、明治政府が近代化の原動力である製糸業の役割への畏敬の念からその原型を残すことが重要であるという

強い思いがありました。

— 売らない。貸さない。壊さない。— 3原則として公称されていたわけではありませんが、その思いで保全・管理してきたことは確かであり、歴代の社長から脈々と引き継がれる富岡製糸場への思いが詰まっております。

操業停止後の富岡製糸場には、管理事務所を設置し、常時人員を配置し、見回りや補修にあたっていました。当時管理事務所に勤め



2005年富岡工場引き渡し式（感謝のつどい）

ていた社員からは、水と火には細心の注意を払っていたと聞いています。雨漏りで建物が傷まないよう、台風、大風、降雪の後は、建物内部を歩き回り、隅々まで点検していました。禁煙を守らない工場見学者に対しては、たばこの投げ捨てで建物に火が燃え移らないようにと大声で注意することもあったそうです。

2005（平成17）年、当社は富岡製糸場を富岡市へ寄贈します。その後、ますます世界遺産登録に対する機運が高まり、群馬県が「富岡製糸場を世界遺産登録するためのプロジェクト」を公表して10年、さまざまな人の思いが積み重なって、達成された世界文化遺産への登録でした。

ここからは、製糸業を祖業とし121年間製糸を営んできた当社が自信をもってお届けするシルク製品について少しPRさせていただけだと思います。

●シルクを纏う。輝きがめぐりだす。

Katakura Silk

1994（平成6）年、埼玉県熊谷市にある熊谷工場の休止を最後に当社は、製糸業1

21年の歴史を終えましたが、現在も伝統や確かな技術力を受け継ぎ、高品質で着心地に優れたシルク製品の企画・開発・販売をしています。

シルク製品で「毎日を心地よく過ごしていたきたい。伝統的なシルクの良さを知っていただきたい。」

そんな想いから2017（平成29）年春、シルク新ブランドKatakura Silkを立上げ、当社シルクブランドを復活させました。

シルクは、糸自体に吸放湿性やUVカット、保湿性などの様々な機能をもつ多機能素材で、唯一無二の天然繊維として今もなお注目されています。Katakura Silkの中でも「プレミアムライン」は、糸は着物にも使われている生糸の中でも10%未満しかない希少価値の高いA5ランク以上のものを使用、編立方法を工夫したオリジナル生地を開発、着心地を追



デイリーライン



プレミアムライン

及した縫製を施すなど、こだわった商品ラインです。現在は、この日本製のシルク100%インナー「プレミアムライン」と、より日常的に着用できるブラジャーやショーツを中心とした「デイリーライン」を全国の百貨店にて随時ポップアップ展開しています。もちろん当社オンラインストアからも購入することが出来ますので、ぜひ肌に触れ、良いものを身に纏う特別感を感じてみてください。

KatakuraSilkブランドサイト

<http://www.katakurasilk.jp/>

カタクラオンラインストア

<https://katakura.jp/>

●日本女性の素肌のために

国産品質のうるおいを「絹蜜」化粧品

絹蜜は、その名のとおり天然素材「シルク」と「はちみつ」を配合した化粧品です。

シルクには、セリシンという成分が含まれていることをご存知でしょうか。製糸工場に勤めていた工女の手が、絹のようにとてもきれいだっただといわれる理由が、このセリシンというシルク成分によるものです。

セリシンは一つの繭から微量しか採取できない希少なアミノ酸で、肌本来の天然保湿因



「絹蜜」化粧品
クレンジングオイル、導入化粧水
洗顔石鹸、オールインワンジェル

子に極めて似た構造をもつアミノ酸組成をもち、自然由来成分として高い保湿力が注目されています。「絹蜜」はこのセリシンを一切加水せず有効分100%のまま配合した基礎化粧品です。高純度のセリシンが肌に浸透し、うるおいを保持する力をサポートします。

昨年は、「洗顔石鹸」「オールインワンジェル」に加え、ウォータープルーフのメイクを落とせる「クレンジングオイル」と後続化粧品の浸透を高める「導入化粧水」が新登場しました。無添加処方（香料・着色料・鉱物油・パラベン不使用）でございますので、ぜひお試しください。自然由来成分の素晴らしさを実感してください。

絹蜜 ブランドサイト

<http://www.kinunitsu.jp/>

ふれあいトークサロン

第32回 平成29年9月22日(金) (参加者27名)

■OMGパートナーズビル三階会議室において開催

〈第32回〉数にまつわる不思議な話

NPO 科学技術者フォーラム 監事 地畑 健吉

数学者でもない私が本日皆様に「数」のお話をするのは、とあるきっかけで、和文字で表された数字に興味を持ち、辿っていったら

『塵劫記(じんこうき)』という江戸時代初期に書かれた数学書にいき着いた、という理由からです。

『塵劫記』のお話をする前に、時代背景に触れておきます。

紀元前1世紀〜紀元後2世紀あたりに書かれたとされる古代中国の「九章算術」という算術書を参考にして1592年、明末期の数学者、程大位が「新編直指算術法統宗」を書きました。これが室町〜安土桃山時代あたりに渡来し、これを読み学んだ江戸初期の土木技術家の吉田光由(みつよし)が1627年に書いたのが『塵劫記』です。勿論その前から

日本にも算術はありました。先程の「九章算術」が中国から渡来してきたのは平安時代と考えられております。

『塵劫記』という書名は仏教語の「塵点劫」に由来していて、これは「いつの時代にも変わらない真理」という意味です。著者の吉田光由は、今では和算の創始者などと言われていますが、元は土木や測量の専門家だったのです。原文は我々が読んでも何が書いてあるのかさっぱり分かりませんが、1977年に日本数学史学会の大矢真一先生が校注し、岩波文庫から現代語訳した『塵劫記』を出版されました。現在は絶版となっておりませんが、私は幸運にも古本市で入手し、読むことができました。

初版本は4巻26条からなり(図1)、数や単位の規定・読み方、九九、割り算の九九、

図1 「塵劫記」初版本(4巻、26条本)

巻の1	序文	第1条 大数	第2条 少数	第3条 米の量の単位	第4条 田の単位	第5条 九九	第6条 割り算の九九(その1)	第7条 割り算の九九(その2)	第8条 割算と掛算	第9条 米の売買
巻の2	第10条 金や銀の両替	第11条 銭の売買	第12条 利息の計算	第13条 絹布の売買	第14条 外国品の買物	第15条 舟の運賃	第16条 柁の大きさ			
巻の3	第17条 検地	第18条 収穫と税	第19条 金箔の売買	第20条 材木の計算						
巻の4	第21条 河川の工事	第22条 いろいろな工事	第23条 木の高さを測る	第24条 測量	第25条 開平法	第26条 開立法				



●地畑 健吉 (ちばた たけよし)
 1935年東京生まれ。東京理科大学卒業。1995年東洋インキ製造(株)を定年退職、接着コンサルタント開業以後、国内外企業の技術指導、技術相談を行う。日本接着学会終身会員、日本化学会永年会員、高分子学会ゴールド会員、NPO科学技術者フォーラム 監事。

物の売買の計算方法や金、銀の両替、利息の計算、船の運賃、枘の大きさの測り方、検地、税、河川の工事等を使う測量計算、平方根、立方根に至るまで、実に一般の生活に必要な算術の全てが解説されていました。私も初めて読んだとき、この時代に既に九九が存在し、九九どころか割り算の九九(割声という)や平方根、立方根まで書いてあることにととても驚いた次第です。しかも、当たり前ですが当時は電卓があるはずもなく、算用数字も無く、漢数字にそろばんでこれらを全て解説しているのです。

更にこの本がユニークなのは、単にそれぞれの計算方法を解説しているのではなく、必ず問題が先に書いてあります。そしてその後に答え、解き方がきます。つまり、参考書というよりは問題集形式になっています。そして、継子立てだとかねずみ算のような、数遊びのようなものも一緒に書いて体系づけてありました。

この実用数学書ともいべき書は、寛永4年(1627年)初版を出版後も数年毎に内容を大衆にも理解できるように改善し、寛永20年まで改訂版を次々と出し、版を重ねるごとに江戸時代の庶民に浸透していき、結果大ベストセラーとなっていきました。

そのうち、著者と全く関係のない「新編塵劫記」だとか「新版塵劫記」なんていう海賊版まで出回るようになりまし。このころ「塵劫」というと算術のことを

図2 割り算の九九一割声(われせい)

二刻圖	二一 天作五 (にいちてんさくのご)	逢 二進一十 (にしんのいちじゅう)		
三刻圖	三一 三十一 (さんいちさんじゅうのいち)	三二 六十二 (さんに、ろくじゅうのに)	逢 三進一十 (さんしんのいちじゅう)	
四刻圖	四一 二十二 (しいち、にじゅうのに)	四二 天作五 (しに、てんさくのご)	四三 七十二 (しさん、しちじゅうのに)	逢 四進一十 (ししんのいちじゅう)
五刻圖	五一 倍双二 (ごいちばいのに)	五二 倍双四 (ごにばいのし)	五三 倍双六 (ごさんばいのろく)	五四 倍双八 (ごしばいのはち)
				逢 五進一十 (ごしんのいちじゅう)
六刻圖	六一 加下四 (ろくいち、かがのし)	六二 三十二 (ろくに、さんじゅうのに)	六三 天作五 (ろくさん、てんさくのご)	六四 六十四 (ろくし、ろくじゅうのし)
			六五 八十二 (ろくご、はちじゅうのに)	逢 六進一十 (ろくしんのいちじゅう)
七刻圖	七一 加下三 (しちいちかがのさん)	七二 加下六 (しちにかがのろく)	七三 四十二 (しちさんじゅうのに)	七四 五十五 (しちごじゅうのご)
		七五 七十一 (しちごしちじゅうのいち)	七六 八十四 (しちろくはちじゅうのし)	逢 七進一十 (しちしんのいちじゅう)
八刻圖	八一 加下二 (はいち、かがのに)	八二 加下四 (はちに、かがのし)	八三 加下六 (はちさん、かがのろく)	八四 天作五 (はちし、てんさくのご)
	八五 六十二 (はちごろくじゅうのに)	八六 七十四 (はちろく、しちじゅうのし)	八七 八十六 (はちしちはちじゅうのろく)	逢 八進一十 (はっしんのいちじゅう)
九刻圖	九一 加下一 (くいち、かがのいち)	九二 加下二 (くに、かがのに)	九三 加下三 (くさん、かがのさん)	九四 加下四 (くし、かがのし)
	九五 加下五 (くご、かがのご)	九六 加下六 (くろく、かがのろく)	九七 加下七 (くしち、かがのしち)	九八 加下八 (くはち、かがのはち)
				逢 九進一十 (くしんのいちじゅう)

指す言葉として使われたりしました。

それでは中身を見ていきたいと思えます。

まずは大数。図3にある通り、一、十、百、千、万、億、兆……ここまでは一般的ですが、京、垓、ずっといって、恒河沙、阿僧祇・無量大数と続きます。それぞれ意味がありまして、京は都。都には大勢の人がいますから。垓は果ての果てという意味。穰は豊穰の穰で実りが多い。恒河沙は恒河、つまりガンジス河の砂は無数である。阿僧祇とは「数えられない」の意味。那由他は「非常に大きい」、不可思議は今でも使う言葉ですよ。このあたりになると、数というより仏教の世界、宇宙とか、あちらの世界の話になりますね。「算法統宗」で表された恒河沙はいくつかというと、10の96乗です。不可思議は10の120乗。まさに不可思議な数です。光は1秒間に約30万キロ進みますが、その光が1年掛かって到達する距離を1光年と言いますね。計算しますと、1光年で進む距離は約9兆4600kmです。恒河沙とか不可思議は、一体何光年になるのでしょうか。気の遠くなるような話です。

それから数の名称ですが、一、十、百、千

と数詞を用いて数を表すのを「命数法」と言い、数字を用いて表すのを「記数法」と言います。そして図3を見ていただくと分かる通り、中国から渡来した算法統宗に表された数と塵劫記の数は違います。1兆は、算法統宗は10の16乗に対し塵劫記は10の12乗。1溝は、前者が10の56乗に対し後者は10の32乗です。これは著者吉田

光由が学んでいくにつれ、実用的に改定していったと思われる。そして寛永11年版以降は今、我々が日常使っている万進法に至っています。一、十、百、千と上がって、万、十万、百万、千万、それから億、十億、百億、千億と、4桁ずつ上がっていくのが万進法です。この時吉田光由が決めた命数が、今現在も生きているということなのです。

次に少数ですが、銭貨の単位で1文(もん)が基準となり1両は10文、1分は10分の1文、1厘は100分の1文(図4)。ここに

図3 大数

名	称	数		
		算法統宗	塵劫記	
			初版 (1627)	寛永8年版 (1631)
一	いち		10 ⁰	
十	じゅう		10 ¹	
百	ひゃく		10 ²	
千	せん		10 ³	
万	まん		10 ⁴	
億	おく	10 ^{8×1} =10 ⁸	10 ⁸	10 ^{4×2} =10 ⁸
兆	ちょう	10 ^{8×2} =10 ¹⁶	10 ¹⁶	10 ^{4×3} =10 ¹²
京	けい	10 ^{8×3} =10 ²⁴	10 ²⁴	10 ^{4×4} =10 ¹⁶
垓	がい	10 ^{8×4} =10 ³²	10 ³²	10 ^{4×5} =10 ²⁰
穠	し	10 ^{8×5} =10 ⁴⁰	10 ⁴⁰	10 ^{4×6} =10 ²⁴
穰	じょう	10 ^{8×6} =10 ⁴⁸	10 ⁴⁸	10 ^{4×7} =10 ²⁸
溝	こう	10 ^{8×7} =10 ⁵⁶	10 ⁵⁶	10 ^{4×8} =10 ³²
澗	かん	10 ^{8×8} =10 ⁶⁴	10 ⁶⁴	10 ^{4×9} =10 ³⁶
正	せい	10 ^{8×9} =10 ⁷²	10 ⁷²	10 ^{4×10} =10 ⁴⁰
載	さい	10 ^{8×10} =10 ⁸⁰	10 ⁸⁰	10 ^{4×11} =10 ⁴⁴
極	ごく	10 ^{8×11} =10 ⁸⁸	10 ⁸⁸	10 ^{4×12} =10 ⁴⁸
恒河沙	こうがしゃ	10 ^{8×12} =10 ⁹⁶	10 ^{15×8} =10 ¹²⁰	10 ^{4×12+8} =10 ⁵⁶
阿僧祇	あそうぎ	10 ^{8×13} =10 ¹⁰⁴	10 ^{15+8×2} =10 ³¹	10 ^{4×12+8×2} =10 ⁶⁴
那由他	なゆた	10 ^{8×14} =10 ¹¹²	10 ^{15+8×3} =10 ³⁹	10 ^{4×12+8×3} =10 ⁷²
不可思議	ふかしぎ	10 ^{8×15} =10 ¹²⁰	10 ^{15+8×4} =10 ⁴⁷	10 ^{4×12+8×4} =10 ⁸⁰
無量大数	むりょうだいすう			10 ^{8×12+8×8} =10 ⁸⁸

命数法:

数詞を用いて数を表す方法 *
初版—十進命数法(小乘法)
寛永11年版以降—万進法

備考:

恒河沙=
恒河(ガンジス川)の無数の砂
阿僧祇=数えられないこと
那由他=非常に大きな数
不可思議=

常識では理解できない不思議なこと

仏典数詞:

大方広華嚴經の巻第四十五、
阿僧祇品第三十:
10⁷=俱胝以上2乗をつぎの単位
10^{7×2} = 10¹⁴
那由他=10^{7×2} = 10²⁸
阿僧祇=10^{7×2} = 10¹⁰³
無量=10^{7×2} = 10¹⁰⁵
不可説不可説転= 10^{7×2} = 10¹²²

* 記数法: 数字を用いて数を表す

は清浄(10のマイナス21乗)まで書かれています。仏教用語では更に、10のマイナス22乗が「阿頼耶(アラヤ)」、23乗が「阿摩羅(アマラ)」、24乗が「涅槃寂靜(ネハンジャクジョウ)」と、いかにも仏の世界観ですね。

現在の国際的な単位でいうと、10のマイナス1乗がデシ。デシリットルのデシ。10のマイナス2乗がセンチ、マイナス6乗がマイクロ、マイナス9乗がナノ、マイナス12乗がピコ・・・となっていく。因みに大数は10の3乗がキロ、6乗がメガ、9乗がギガ、12乗がテラと、最近パソコンで使っている命数がでてきます。

余談ですが、兆の次の京(ケイ)。この京で思い出すのが2009年当時の与党民主党が行った事業仕分けであの方が言った、「世界一になる理由は何があるのでしょうか? 2位じゃだめなのではないか?」これで有名になったのがスーパーコンピュータ京。京は10の16乗の京から命名されました。当時世界一の演算速度でしたがあの翌年に米IBMに抜かれて、今は京よりも33倍速い中国の天河2号が世界一です。ところが日本も負けていません。2020年を目標に京の100倍の速度のスーパーコンピュータの開発に

チャレンジしています。

皆さん、最近よく「ナノ」って耳にしますね。10のマイナス9乗です。木材をずうーと解いていくとセルロースになります。更に解いていくと、セルロースナノファイバーになります。このセルロースナノファイバー、軽さは鉄の5分の1、強度は鉄の5倍と言われている、未来の材料として今、とても注目されています。ただ、とてもコストがかかるのが難点です。保水性、保水性にも優れているので、最近ヨーグルト等食品に混ぜて使われたりもしています。

話を『塵劫記』に戻します。

先程、九九や割り算の九九が既に記載されていると話しましたが、更に2巻以下では、実際の計算問題が出てきます。図5は利息の計算ですが、このように先ず問題があつて、答。その後解き方の解説が記されています。次は比例

図4 少数

名	称	少数	備考
(兩)	りょう		錢貨の単位、兩は十文。
(文)	もん		錢貨の単位。
分	ぶ	10 ⁻¹	
厘	りん	10 ⁻²	もとは釐(り)、厘は略字。
毫	もう	10 ⁻³	毫は後に「毛」と略す。
糸	し	10 ⁻⁴	少数の単位。
忽	こつ	10 ⁻⁵	にわか。たちまち。
微	び	10 ⁻⁶	かすか。わずか。
纖	せん	10 ⁻⁷	細くて、弱い。
沙	しゃ	10 ⁻⁸	砂の本字。
塵	じん	10 ⁻⁹	ちり。ほこり。ごみ。
埃	あい	10 ⁻¹⁰	ほこり。すぐ舞い上がるほどのごく細かい軽いごみ。
渺	びょう	10 ⁻¹¹	かすか。ごく小さいさま。
漠	ばく	10 ⁻¹²	蒙古の砂漠。広すぎて全体がよく掴めない様子。
模糊	もこ	10 ⁻¹³	本当はどういう形であるか、はっきり見えない様子。
遠逡	しゅんじゅん	10 ⁻¹⁴	決断がつかず迷うこと。ためらうこと。
須臾	しゅゆ	10 ⁻¹⁵	しばらく。少しの間。暫時。寸刻。
瞬息	しゅんそく	10 ⁻¹⁶	瞬きや一呼吸する時間。きわめて短い時間。
彈指	だんし	10 ⁻¹⁷	きわめて短い時間のたとえ。
刹那	せつな	10 ⁻¹⁸	「ちよつとの間」の意の梵語の音訳。きわめて短い時間。
六徳	りつとく	10 ⁻¹⁹	六つの徳。知・仁・聖・義・忠・和。
虚空	こくう	10 ⁻²⁰	よるべき何物もない地上の空間。(広)大空。
清浄	せいじょう	10 ⁻²¹	汚れたところが少しも無く、きれいな様子。

備考:
「算法統宗」の「少数」の単位は「塵」に止まって、その下に埃・・・清浄を挙げ「唯、この名ありて実なし。公私また用いず」とある。「塵劫記」(寛永20年版)でも「少数」の単位は「埃」で止まっている。

割:元高の十分の少数の単位でない。

10⁻²¹: 清浄
煩惱や悪行が無く
心身が清らかなこと

10⁻²²: 阿頼耶(あらや)
大乘仏教用語「阿頼耶識」
深層意識

10⁻²³: 阿摩羅(あまら)
大乘仏教用語「阿摩羅識」
清浄無垢な意識

10⁻²⁴: 涅槃寂靜(ねはん
じゃくじょう)
仏教用語「雑阿含経」
悟りの世界(涅槃)は静かな
安らぎの境地(寂靜)

みなさんで新入会員を増やしましょう！

会員対策委員会

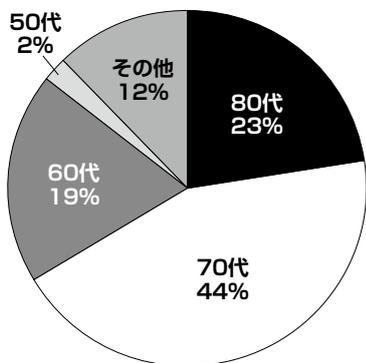
関東の会員数は現在600名を下回り、また平均年齢も年々上昇して今では75歳を超えております。今後高齢化が一層進み会員数も更に減少してゆけば、日退協はその存在意義を問われることにもなりかねません。

こうした状況を打破するため、私達は今の伝統ある組織を立て直し、公益社団法人としての存在感を高め、かつての勢いを取り戻す必要があります(図1参照)。

〈現状の問題点と課題〉

このような状況になった最大の原因は『新会員の入会よりも退会者の方が多い』点にあります。また『イベントに参加してもなかなか

図1 関東会員の年齢構成
(平成29年7月 現在)



か打ち解けず、次のイベントには参加する気にならない』『自分に興味のあるイベントが見つからない』なども現会員の参加率低迷の要因になっています。会員の『興味を引くイベント』や『講演テーマ』の設定なども大きな課題です。

〈新入会員の増加と協会の目的〉

また新入会員の募集については今後も「会員による紹介」が基本となりますが、これ以外の方法も考えなくてはなりません。

年間の定年退職者数は推定約70万人と言われています。私共もかつてそうでしたが定年を迎える人々にとって、これからの人生をどのように過ごしていくかは最大の関心事です。こうした人たちの受け皿となるのが公益社団法人・日退協の最大の目的です。

〈時代に合った協会のあり方〉

私たちは今後も様々な改革を行いながら、時代の変化に向き合っていきたいと思えます。また、IT化が進む中、パソコンやインターネットを使いこなすようになっていく時代に

合わせ、今後はあらゆる場面でインターネットを最大限活用した対応も必要になると思われれます。

いま最も大切なことは、皆様のお力による会員獲得への取組みです。

1. 身近な人を誘ってイベントに参加し、協会に興味を持って貰いましょう。知人、友人に入会を働きかけてください。

2. 出身の法人に対し、今後定年を迎える方々に人事を通してPRのお願いをしてみてください。

3. 自分の所属するOB会(法人・学校等)にPRに出向いていただけませんか？

4. 女性会員の増加は急務です。女性会員の方々には、お仲間の結集を図り、参加への呼びかけを強めていただきたいと思えます(女性だけのサークルを増やす等)。

これらは豊かな、楽しい老後を知人、友人、会社の後輩の方々に過ごしていただくために必要なことで、その中から新しい人の輪を皆で創っていきましょう。皆さんの力をここに結集いたしましょう！皆さんのご協力をぜひともお願いいたします。

「当協会の社会貢献活動について」

社会貢献活動委員会 山鹿 素雄

「留学生との交流」(広島)

「使用済み切手回収運動」

「点訳活動」(広島)

「ボランティア委員会設立」(広島)

「チャリティーコンサート」

協会創立以来の数多くの社会貢献活動の中でほんの一部を書き上げてみましたが、早いもので、当協会の社会貢献活動委員会が発足して10年が過ぎました。この機会にその活動を振り返ってみることにします。

そもそも高齢化社会の諸問題に対応して当協会が設立されましたが、その目指すところは「健康と生きがいを求め、積極的に社会参加する」ことでした。このため、各種イベント活動、講演会、研修会等に注力し、高齢者の社会参加活動を支援してまいりました。さらに、その活動を広げるために広島に支部を設けて活発に活動を始めました。

その後公益社団法人を目指し、さらに社会貢献活動を拡充すべく、2007年5月に社会貢献活動委員会を発足させました。

「ペットボトルキャップの回収」

「きたざわサロン」(北沢地区・認知症予防)

「私の覚書」(エンディングノート)

など具体的な活動を積み重ねた結果、2012年4月に私たちは公益社団法人に認定されました。

その間にも「バザー収益金の寄付活動」(広島)「虹の子作業所(ダウン症児を中心にした施設)・東北沢つどいの家(重度肢体不自由児施設)へのバザー用品の献品」、新たに発足した地域会による「虹の子(前出)バザーオークション」(神奈川会)「福島・双葉町への支援協力」(埼玉会)「ワンコイン募金による社会福祉協議会への寄付」(埼玉会)などの拡がりを見せ始め、東日本大震災を含め、広島土砂災害、熊本地震への義捐金活動も継続、定着化に加え、最近では世代間交流活動「シニアサロン杉並」もスタートしました。

加えて、2013年東京・加藤孝子会員、2014年広島支部・「留学生との交流会活動」が内閣府からエイジレスライフ実践者、

あるいはグループの社会参加活動として顕彰されるなど、我々の社会貢献活動も高い評価を受けていると思います。

今後これらの活動のさらなる展開が望まれますが、現在活動している人達の固定化と高齢化が懸念されます。

「不特定多数の利益に供する」という公益法人の精神に則り、イベント、地域会、ホームページ等協会の総力をあげて、内外部への声掛けにより新しい人を楽しんでもらい、将来社会貢献活動に参加して、未来の日退協を受け継いでいただくことを願っております。



きたざわサロンの参加者とスタッフの合唱風景
(右端男性は最年長の95歳)

『かがやきサロン杉並』2017年下期の活動報告

～ 今年の振り返りと今年の展望 ～

サポーター代表 満田 将太

多世代交流サロン「かがやきサロン杉並」も、昨年12月に38回目を迎えました。多くの方のご支援によりここまで続けてこられたことに感謝申し上げます。

保険講座「認知症保険について」

第35回（9月2日土）サグチャナ (Sag Chana)

のお三方による中近東音楽／平一暁さんによる「害虫やネズミを室内に入れさせないためのワンポイントレッスン」

第36回（10月7日土）長谷川信寿さんによる

マジック／岡田史佳さんによる耳ツボ講座

第37回（11月4日土）シンガーソングライター

小山貴弘さんの演奏／佐藤秀哉さんによる葉の正しい飲み方や相談のしかた講座

第38回（12月2日土）クリスマスパーティー（六

弦ギターの池田宏里さん、歌謡歌手理央さ

ん、仲町浩二さん）

特に印象に残ったのは第34回のデュオ「ノブタク」でした。自閉症と向き合いながらの演奏と二人のお母様の「特異を得意にかえて」と題した講演はとても素晴らしいものでした。

■2018年の展望

2018年からかがやきサロン杉並は2ヶ月に1度（偶数月の第一土曜日）の開催となります。開催回数は減りますが、参加者の増加に力をいれ、より盛り上がる会にしていければと考えています。また2018年は杉並区の後援を取ることを目標にしています。

『かがやきサロン杉並』では、参加者だけでなく、お手伝いして下さるボランティアの方の募集もしています。



7月 恒松あずささんの演奏



8月 ノブタクのデュオ



9月 サグチャナの中近東音楽



10月 岡田史佳さんの耳つぼ講座



11月 小山貴弘さんの演奏

■開催概要

開催場所…かがやき亭
 アクセス…JR西荻窪駅から徒歩7分／
 バスで西荻窪北4丁目より徒歩2分
 開催日…2018年は偶数月の第一土曜日
 参加費…1000円（交流会、別途500円）
 HP…<http://suginami-salon.com>

〈個人会員親睦会〉

「はつらつふれあいの集い」



前田会長挨拶

「シニアライフに新しい生きがいを！」が当協会のコンセプトです。この理念のもと、いろいろなイベント・催しを協会は行なっています。この思いをこめた協会の主要行事の一つが、主に関東在住の会員（非会員も含む）を対象に会員相互の親睦、交流を推進するため年1回開催されるのが表記の会です。

秋の長雨というような風流の雨ではなく、梅雨の再来を思わせるような曇天の10月25日、日暮里のホテル・ラングウッドにて、140名ほどの参加を得て開催されました。

会場入り口には、例年どおり、協会のいろいろなイベントのパネルが展示され、ご来場のみなさまのご理解の一助になったのではと思っております。

会は定刻に細江事務局長の開会挨拶で始まり、以後の進行は高島専務理事に。挨拶の直後、協会のイベントの一つである「竹とんぼ同好会」の末松先生労作の「垂れ幕」が会場正面のステージ脇に披露され、参加者一同、先生の発声で「垂れ幕」のスローガンを唱和し、会場は一段と盛り上りを見せました。



湯藤理事長の開会挨拶

パーティ用のビール提供
アサヒビール株式会社
景品の提供

霧島酒造株式会社／坂元醸造株式会社／損害保険
ジャパン日本興亜株式会社／宝酒造株式会社／丸大
食品株式会社／株式会社ミツウロコグループホール
ディングス／宮崎県東京事務所



関根副会長の乾杯

前田会長、湯藤理事長の開会挨拶のあと、今年度にご加入頂いた新入会員の紹介。今回は、7月の豪雨災害支援のため、秋田県の新米を贈呈。みなさま、今後とも協会をよろしく。

このあと食事とアトラクションの時間に関根副会長の発声により一同乾杯。テーブルに並ぶ中華料理に舌鼓を打ち、お互いに歓談しながらステージの演目（ダシモノ）を楽しむ。先陣を承るのは男性合唱団の「フェローチェ」。美しいハーモニーを響かせるこの合唱団も協会のイベントの一つ。素晴らしい旋

律に会場は大満足。続いて柳家緑君師匠による落語の一席。師匠の話芸に会場は爆笑の渦につつまれる。三番手はこれまた協会イベントのカラオケ会の競演。協会には「カラオケ会Ⅰ、Ⅱと地域会の神奈川カラオケ会の三つがあるが、本日はその3グループが夫々ご自慢のノドの披露。自慢するだけのことはあると一同納得。最後をつとめるのは仲町浩二さんの演歌と会場全員による「東京音頭」の大合唱。

アトラクションの余韻が残る会場ではお待ち兼ねの「くじびき」。抽選会に入る前に本催しに協賛頂いた法人会員の御紹介が行われました。

さて抽選会に。一番人気の宮崎牛をはじめ宮崎ブランドポーク、日本酒、焼酎、天然水、リンゴ黒酢、デザートセット、美術館入場券と多種多様にわたりバラエティに富んだ景品と素敵な景品をご提供頂いた法人会員の皆様に対し、本紙面を借りまして厚く御礼申し上げます。

今回は抽選に外れた方にも、協会傘下の4地域会（神奈川会、埼玉会、西東京会、京葉会）の協力を得て、ちよつとした手土産を用

意し手ぶらで帰路につかれぬようにしました。が、さて、皆様いかがでしたか。

会の最後は、いつものように、会場の皆様全員で「花は咲く」、協会の歌を大合唱し、またの再会を約束しお開きとなりました。

今回も前年と同様、会場入口のコーナーで協会が社会貢献活動の一環として取り組んでいる「きたざわサロン」の女性スタッフ手作りになる小物、協会が支援している鎌倉の



カラオケの競演

「ダウン症児訓練施設 虹の子作業所」の子供たちの手作り作品の夫々の展示即売会が設けられ、ご来会の皆様のご理解を頂き、両コーナー共、完売に近い売上をあげることが出来ました。ご協力ありがとうございました。売上金は夫々の目的に充当します。

今回は各地域会の協力もあり、イベントの活用によりアトラクション等は自前で行なうことが可能となり、これからの本催しの運営の参考になりたいと考えています。



カラオケの競演



抽選会



落語 柳家緑君師匠



参加者による東京音頭



仲町浩二さん



男声合唱 フェローチェ

マチユリテイ談話室

古代史への夢

尾利出 收



昨年6月末に損害
保険会社、食品メー
カーの企業代理店、
通算で43年の会社勤

めを何とか無事終え、同期入社のお2人のお誘いにより7月に入会させていただきました。完全にリタイアから、4か月余りとなりますが、1時間強の通勤、退勤後の酒席たまに梯子酒による午前様の生活が、既にはるか昔の事のように感じております。

現在は、朝、昼、夕方の方の犬の散歩のお蔭で、毎日1万歩程度は歩いており、酒以外の薬も飲むことなく、案外1週間も退屈することなく暮らすことが出来ています。

昔の会社の同僚、元クラスメイト等とのゴルフ、飲み会があればお付き合いしております。

すが、ライフワークと言えるような趣味、特技も持ち合わせておりませんし、元々無精な性格のせいか改めて新しいジャンルに挑戦する気概はありません。

恵まれた時間を自分なりに有意義に過ごすことは決して否定出来ませんので、40歳前後から興味のあった日本の古代史関連書籍の読書、遺跡資料巡りを無理のない形で深めたいと考えております。

古代史への興味のきっかけは、単に推理ものを中心とした現代小説作家と考えて、当時一度も読んだことのなかった黒岩重吾氏の古代史小説「天の川の太陽」（壬申の乱を舞台にし、吉川英治文学賞受賞作）をたまたま書店で手に取り、同氏の「白鳥の王子ヤマトタケル」他の古代史小説、「古代史への旅」等のエッセイを通読したことによります。

その後、黒岩小説を離れ、8年間の単身赴任時の休日、退勤時間（流石に、出勤時間は、日経新聞）を利用し、講談社学術文庫25巻、中公文庫27巻の日本の歴史（通史）、日本書紀、古事記、出雲風土記、万葉集（予備校通学の際に、古文の講師をされており非常に感銘を受けた中西進先生の編集）を含めた主に古代史関連の書籍を読み漁って参りました。

学生時代に馴染んだ私小説等、歴史関係以外の書籍は読む余裕がありません。

日本の古代とは、一般的に、飛鳥時代から平安時代中期まで（鎌倉幕府成立までとする考えもあり）を指すようです。中世、近世、現代史も興味がないわけではないのですが、比較的、想像によるロマンを感じられること、今後限られた時間の中で、広く浅くより、石器時代から古代にかけて今少し深く関わりたいと考えております。

今後は、元損保会社の古代史研究会や、本協会の「歴史を考える会」への参加、自習を含め、呆けることなく、古代史へのロマんに酔い続けたいと思っております。

天神川の川面にいつまでもいつまでも

広島支部 坂井 進



それは1本の電話から始まりました。

7年前の8月の夕刻の事です。友人たちと一杯やっている時でした。携帯がブルブルと震えました。「今何をしている？」先輩からの電話です。「一杯やっています」相変

わらず人の話は聞かない方です。「松江で人を探している。仕事をしないか。推薦しておいた」と言う事になり、現在は広島から松江に毎週通って営業の仕事をしております。

松江駅前の食事付きのホテルに泊まり、会社まで歩いての通勤です。役所などでは白髪と髪の薄い方々が多い中、まさか私よりも歳が多い人はいないだろうなと思いつつ、賞味期限が切れるまでは、何かお役に立てれば良いかと思っている昨今です。こんな日常の中での楽しみの一つが俳句です。

まほろば句会に入って早いものでもう6年の歳月が流れようとしています。

先輩諸兄の温かいご指導を頂きながら勉強はしているものの、何分浅学菲才な上にセンスの欠片もない身には句会はまだまだ苦会の状況です。

とは言うものの俳句を考え移りゆく四季折々を愉しみながら、春は桜、夏は蛍、秋は紅葉、冬は川に泳ぐ白鳥を見て宍道湖から流れ出る天神川の河畔を歩いて通勤しています。そんな中、保育園児を連れ親と毎朝すれ違いますが、園児に声を掛けますが、恥ずかしいのか直ぐに顔を下に向けたたり、横に向いたりしています。

最近はやっと「お早う」と言う声が返ってきました。また手を振るようにもなりました。遠くから私の顔を見つけたら、走ってきます。

何かの弾みで、抱きかかえましたら大喜びでした。それからと言うものは毎朝高い高いと言って抱き上げてやります。大喜びします。園児を連れられた母親は、まだ若い身空ですが洩れ聞くとところ訳ありのようで、女手一つで育てています。園児は父親に飢えている感じがします。

ある日、その母親から「とても子供が懐いています。お名前を」と言われましたが、このままにしときましようと言って名前は伏せております。

今日は誕生日だったそうで、園児から手紙を渡されました。渡された後で、園児がおじちゃん、おじちゃんと呼んでいましたが、私は後ろを振り向かず聞こえない振りをしてそのまま歩いて行きました。

天神川の川面には園児がおじちゃんと呼ぶ声がいつまでもいつまでもこだましていました。

深入りする前に、もう会わない方が良くかなと考えながら、川を泳ぐ白鳥を横目でみて句作りに励んでいる今日この頃です。

読書のすゝめ

鶴岡通敏



「本を読む」とは如何なる行為なのでしょう。活字によってもたらされる

情報量は音声や映像に比較して各段に劣ります。そこで脳はその不足している情報を補うために活動を活性化させます。つまり情報量が少なれば少ない程、「想像力」で補われる部分は大きくなります。

では「想像力」とは何でしょうか？ それは『自分の言葉で考える行為』です。「読む行為」とは単に活字を視覚的に脳へ伝えることではなく、不足する情報を「想像力」で補い、曖昧な部分を解決しながら自分の言葉に置き換えてゆく過程を意味します。読書量が多ければ多いほど、言語能力は鍛えられて深い理解が得られる結果、よく言われる「行間が読める」状態になるのです。

「嫌われる勇氣」はアドラー心理学の考え方を対話形式で書かれている本であり、説得力があります。その当時の私は対人関係や自

分の生き方に思い悩んでいた時期でもあり、難解ではありましたが、この本が悩みを解決するヒントを与えてくれるものと信じて「想像力」を膨らませながら読み進んだ結果、過去の経験や周囲とのしがらみに囚われて身動きが取れずに深く思い悩んでしまっていた自分によりやく気付くことが出来ました。

この本には「人は他人の期待に応えるために生きているのではない」「他人の視線を気にしてはならない」「周りのご機嫌取りをする限り、本当の人生は送れない」といった趣旨のことが繰返し書かれています。

これまでの自分の生き方を全面否定されてしまった私でしたが、このおかげでそれからの人生を『周りから嫌われても、勇気を持って自分らしく振舞い、人としてありのままに生きて、楽しい人生を送ろう！』と気持ちを持ち替えることが出来て心が大変軽くなったこ



とを憶えています。

この本はその後の私の生き方を変える大きなきっかけとなった、大切な1冊です。

後世に伝えたいこと

広島支部 藤登弘雄



広島に原爆が落とされて72年が過ぎました。昭和20年12月末までに、約14万人

の人が命を失っています。被爆者の平均年齢は81歳となり、今も多くの人が苦痛を強いられています。

私の次兄は、広島高等師範在学中に被爆しました。大きな怪我もなくこれまで過ごしてきましたが昨年7月、88歳で生涯を終えました。

被爆した人たちは、1日も早い核兵器のない世界を願っています。昨年7月国連に於いて「核兵器禁止条約」が採択されました。また10月には核兵器廃絶を訴える「ICAN」がノーベル平和賞を受賞しました。大変喜ばしいことで被爆者運動の今後の励みになるであらうと思っています。しかし、地球を滅亡

させる核の廃絶はまだまだ厳しい状況にあるものと考えています。

私は広島市民の1人として広島での悲劇を後世に伝えていきたいと、約10年前から被爆後残されている建物、炎に焼けながら生き残っている樹木などを水彩画に描いてきました。

戦争体験の無い人、特に若い人たちに1人でも多く絵を見てもらい、広島の実相を次世代に伝え、平和な世界を目指してもらいたいとの思いから被爆犠牲者慰霊碑を含め約300点の絵を描きました。

100ヶ所あまり残っていた被爆建物は取り壊されて行き、現在は86ヶ所保存されています。広島市はこれらを残していくため助成金制度を作り保存に取り組んでいます。「世界遺産原爆ドーム」など被爆の実相を知ることが出来る建物が保存されています。

公園、学校等に生き残っている被爆樹木は55ヶ所に約170本あります。被爆の生き証人として手当てを受けながら生きていますが、だんだん枯れていくものもあります。大切な命について考えてもらいたいと思っています。被爆犠牲者とその家族の悲しみ苦しみを記憶している慰霊碑は無言の証人として広島での悲劇を後世に伝えていくものと思います。約

200基あると言われていますが86基を描きました。なかでも約7000人の学徒動員で亡くなった中学生、女学生の碑の前では涙がとまりませんでした。

これまで広島市を中心に絵の展示会を数回開きました。また建物、樹木、慰霊碑3冊の画集を自費出版しました。広島市の小中学校、公立図書館などへ寄贈し、子供さんたち、市民の皆様に見てもらっています。

被爆者もあと10年すればほとんどの人が亡くなることと思います。広島、長崎の悲惨な歴史を風化させてはならないと被爆二世、市民が伝承活動を進めています。

私も微力ですが描いた絵が少しでも戦いのない平和な世の中に向けて役立つくれますよう祈っています。

これまでの10年、 これからのX年

見並勝佳



離を置いた生活をと、技術コンサルタント業

10年前の6月末で40年勤めた会社を卒業しました。卒業後は会社から一定の距離

を始めました。するとすぐに、日本技術士会の上下水道部会長で会社の先輩でもあったH氏から、これまで10回続けてきた部会の海外研修の幹事をしなさいとの依頼のような業務命令が出ました。行き先はアンコールワットのカンボジアと決めました。水道界で活躍されたW氏（故人）のお世話で、日本技術士会の元幹部、JICA（国際協力機構）、その国で活躍された技術士、プノンペン市水道幹部の方々と繋がりができ、実りある研修ができました。それ以来、オーストラリア、マレーシア、インドネシア、ベトナム、台湾、モンゴル、ラオス、ミャンマー、そして昨年10月ブータン王国の研修幹事を担当しました。ブータンを例にしてお話しします。世界で最も危険な空港のひとつであるパロ空港に無事着陸するとバスで首都ティンプー市に移動し、JICA事務所と日本との関係や援助のことなどの情報を頂きました。翌日、国の公共省を表敬訪問、浄水場、JICA事業の生活排水処理施設建設現場、既存の下水処理場を見学し現場の方との意見交流を行いました。その後、ヒマラヤが見えるというドチェラ峠（海拔3110^{メートル}）を越えて東部のプナカ市のリゾートへ向かいました。帰りの飛行機で

は雲の上に雪山の頂が二つ見えました。ブータンが「幸せの国」であるかどうかは見方により違うなどの印象でした。もうひとつ、制限高である6階建てのホテルや役所は全て階段です。山峡の地で古い寺や城（ゾン）も長い急階段です。首都のティンプーは海拔2400^{メートル}です。ブータンでは、呼吸方法に注意が必要です。ふりかえって、この10年間にあったこと。3年目に1人暮らしをしていた97歳の母の在宅介護が始まり、102歳10月の天寿でした。惚けずにお世話になった訪問看護の方にお礼を言っただけの旅立ちでした。妻の母親も92歳で逝去しました。孫1人が生まれました。又、学校の学科同窓会のHPを担当しなさいと研究室先輩から業務命令を貰い、悪戦苦闘しましたがHPを作成できるようになりました。ほけ防止になるのではと先輩に感謝をしています。NPO法人環境カウンセラー千葉県協議会の仲間、現役時の技術開発国家プロジェクトや業界の同年代仲間などと楽しくおつきあいをしています。これからは皆様と楽しく過ごせたらと願っています。このあと元気で過ごせるのはX年ですがそれまで大事に生きようと思っています。

「週刊読書人」の

編集長が
すすめる本

週刊読書人編集長 明石健五

外国、ことにアメリカや中国、韓国、北朝鮮などの付き合い方が複雑になり、より一層「日本」という国について考えなくてはならない時代を迎えている、ともいえそうです。

マチュリテイの読者も「天皇制」をより正しく理解したいという人が多いのではないかと、このテーマを選んで3冊の本を紹介することにしました。みなさんが興味を持ってこれらの本を買って求め、読んでくれることを期待しています。

●島田裕巳『天皇と憲法 皇室典範をどう変えるか』（朝日新書）

元天皇の退位が、2019年春に迫ってきている（4月30日退位、皇太子が5月1日に即位する日程で最終決定）。新元号については、政府が2018年中に発表する予定である。

法律では、天皇の退位・即位については、どのように決められているか。そもそも「天皇」とはどういう存在か。一時「女性天皇」に関する議論がなされ、またそれに伴って、皇位継承資格者がいなくなる事態も予想され、世論を賑わせた。皇位継承、摂政設置、皇室会議、天皇・皇族の身分など皇室に関する様々な事項を規定した「皇室典範」には何が書かれているか。憲法と天皇の関係とは何かについて、基礎から説きあかし、詳しく論じた1冊。「天皇」がいなければ、首相の任命も法律の公布も、ましてや憲法改正もできないのである。天皇をめぐる問題を今考えるために、必読の書。

●工藤隆『大嘗祭 天皇制と日本文化の源流』（中公新書）

新天皇が、即位後に行なう大嘗祭。ある程度の年齢の方であれば、現天皇が即位した際に行なった大嘗祭を御記憶の方もいるのではないだろうか。しかしながら、この儀式がどのように取り行われるのか。その詳細な内容を御存じの方は、皆無だろう。実のところ、「秘すべきところ」はなはだ多い。ため、謎も多い。本書は、大嘗祭が国家祭祀として姿を現した天武朝から、古墳時代、弥生・縄文時代にまで遡り考

察する。大嘗祭に関する基礎知識にはじまり、そのルーツが長江以南地域の古い稲作儀礼にあると推測する。21世紀の現在までつづく日本的儀式の、その基層にあるものとは何か。アジアの中における日本。その原初にあった文化と大陸文化の融合。現代天皇制を伝統文化として位置づけ、皇位継承問題にも言及する。大嘗祭を前に、是非とも読んでおきたい。

●半藤一利・保阪正康・御厨貢・磯田道史『昭和天皇実録』の謎を解く（文春新書）

宮内庁が24年5カ月の歳月をかけて編集した全61冊、約1万2000ページにも及ぶ『昭和天皇実録』は、2015年3月に刊行がはじまり、全19巻（内、索引1巻、東京書籍）が、まさに平成31年に完結する。87年の生涯にわたり、日々の動静を克明に記した『実録』であるが、たとえば昭和20年8月14日の記録には、次のような記述がみられる。「日本放送協会により設置されたマイクをご使用になり、放送用録音盤作成のため、大東亜戦争終結による勅書を2回にわたり朗読される」。本書は、天皇問題に造詣の深い四氏が、この『実録』を読み込み、徹底検証する。乃木大将の死に接した時のこと、25歳

の若さで即位した時のこと、また二・二六事件が勃発した際には、何があったのか。太平洋戦争開戦の決意をしたのはいつか。改めて昭和という時代を振り返るためにも、まずは入門的な新書で学ぶことをお勧めする。

.....

『週刊読書人』は2018年に創刊60周年を迎える、歴史ある書評専門紙です（毎週金曜日発行）。1年間に8万点以上刊行される新刊書から、毎週10〜15点ほどを、書評やインタビュー・対談等で取り上げます（年間総計約700点）。文学賞の受賞会見や出版界の出来事なども幅広く取材し、記事にしています。

◆定期購読のお申し込み

①162-0805
新宿区矢来町109（株）読書人
電話：03-3260-1579-1
※定価280円×5週14000円を
13000円とし、送料をサービス
いたします。

●親父を超える 神奈川会 石川義明

古稀を過ぎたころより年が替わっても、目標というものを特に意識したことは無く、昨年同様に変化なく暮らせば良いと思っているが、今年には父親が生きた歳と自分が過ごした歳が同じになり、「親父を追い越す」ことが出来る歳になりました。

父は腎臓を患い、透析治療の末74歳6ヶ月で亡くなりましたが、体力気力、ボケ防止に努め元気で追いつき、次なるものを10年後のおふくろを目指すことにしましょうか。

●詩歌と共に

埼玉会（札幌在住） 岩渕芳夫

札幌に転居して4年目に入りました。昨秋、喜寿を迎え流石に身体が錆びついてきました。アンチエイジング策にと、スポーツジム通いと川柳、詩吟の集いに参加しています。薄井是道先生から手解きを受けた詩吟は臍下丹田から地声を発し、川柳は時事を中心に頭を捻るので、精神の鍛錬には最適と心得ております。次の駄句は喜寿祝時の決意です。

この先も

詩歌に託す 人世譜

●三味線

広島支部 江中共治

転勤で京都に居た頃、三味線の音色に魅せられ、それから十年経過。傘寿を超えた今になって、フトしたご縁で手にした三味線。

指の動きは鈍く、耳は遠くなり環境劣化は甚だしいが、この1年頑張つてボランテアができるまでに上達したいものだ。

音楽は聴力がポイント。聞く耳が無いと音も拾えなくなる。散歩の途中などに、街に溢れる音の出どころ探しにも気を使い始めた。

●76歳にして

静岡県 遠藤徳一

1942年に生れ、「一に健康」「二に適度のお金」「三に友人」ゴルフ大好き人間も過去5回のホールインワン、エージシュート国内2回海外1回、まだ鼻たれ小僧と其の道の達人には言われそうだが、然し目標と夢は此れから先も大切に、地域社会に出来る範囲でお手伝いが出来ればと願う新年です。

●今年の目標 京葉会 大友 彰

昨年入会したばかりの新米の会員です。入会に際し、案内に「歴史を考える会」があり早速、興味を持ち4回程出席しましたが、私にはかなり難易度が高く、いつしか足が遠のき欠席が続いてしまいました。そうした折り、10月に開催された「はつらつふれあいの集い」で、偶然にも本会の会長である鈴木さんと同じテーブルになり、欠席の旨、お詫びしましたところ、会長からは「この会は強制ではないから、またいつでも顔を出して下さい」と温かい言葉を頂きました。

今年、会長の温かい言葉を胸に、心も新たに、この「歴史を考える会」に100%出席することが私の目標です。

●パンづくり 広島支部 尾形雅美

公民館で「だれでもできるパンづくり」教室に参加しています。基本手作りです。パンはホームベーカリーで簡単にできます。これでは楽しくありません。パンが出来るまで

様々な手順があり、それらを経て立派なパンになります。そこが楽しいのです。

今迄にいろいろな種類のパンを教わりました。その後、もう一度作ります。上手くいくこともありますが出来ないともあります。

楽しんで作つてうまければ良しとします。

●平成30年を迎えて

埼玉会 倉片厚子

新年を迎えるとき思うこと「自然に対する畏敬・生命の尊厳・自覚・人間の謙虚な心を持つ」これ等のことを忘れてはいないだろうか。縁があり日退協1000余名の中の一員となりました。今年も含め日本国中が2020年の東京オリンピックに向かつて希望を持つ年です。社会の為に何が出来るかと考えても1人の力は微力です。日退協全地域会が本部との連携、協力を密にして会員全員が色々なアイデアを気楽に提供し参加実現をしていける、笑顔で生き生きとした会になって欲しいです。

●思い出の旅へ

広島支部 黒坂貞子

年頭に今年はどこに旅行しようかと考えると気分が楽しくなる。

旅行好きの主人と全国を旅行したものです。ただ鹿児島県だけ行つてなくて、「最後に鹿児島に行こう」という事になり一緒に行きました。「これで日本一周したね」と達成感に満足したのですが、その3日後に主人は突然逝ってしまいました。

あれから7年がたちます。しばらくは旅行に行く気になりませんが、今年には2人で行った思い出の旅に出ることが目標です。

●今年 of 目標

西東京会 塩山哲郎

ヨーロッパを旅行すると各地で古代ローマの遺跡群を見かけます。これらの建造物から、いかに古代ローマ人が政略的に領土を拡大していったかがわかります。ローマのフォロ・ロマーノ、コロッセオ、南フランスの円形競技場、ローマ水道橋、ポルトガルのディアナ神殿等、何れもローマ人によって建造された巨大遺跡です。古代ローマ人の足跡を辿りたく、今年には塩野七生著「ローマ人の物語」(全15巻)を読破したい

と思っっています。

●再度挑戦「一十百千万健康法」

広島支部 下江英昭

今年の目標は、10年前から日課として「一十百千万健康法」を継続することである。この健康法は、

- 一 朝起きたら先ず一杯の水を飲む
- 十 1日10人と言葉を交わす
- 百 1日1000文字書く
- 千 1日10000文字読む
- 万 1日10000歩、歩く

というもので、健康で活気ある生活を送りたいと始めた。近年は病気等で「万」が満足に出来ず、今年には「継続は力なり」で再度頑張ろうと思っっている。

●平成30年の新しい年を迎えて!!

西東京会 谷合幸江

皆様には増々ご健勝にお過ごしのこととお喜び申し上げます。昨年は西東京会で大変お世話になりました。心より感謝申し上げます。本年は女性会員を10名目標に活動させて頂きたく思っっております。日退協という素晴らしい組織の中で数々のイベントに出来るだけ参加して新しい出会いを頂く事こそが自らの健康と充実した人生の糧となるのではないで

しょうか。目標達成に向って今日から頑張っていきます。ありがとうございます。ございました。

●生活習慣に「活」を

神奈川会 豊田和子

日常生活を見直して、その活性化が目標。他愛のない事ばかりです。使ったものは必ず元の場所へ。時間の無駄と、始終探し物をする情けない自分からの脱却。

- ・新聞(読売)の「編集手帖」を毎朝声を出して読む。何だか利口になった気がする。
- ・ラジオ体操の完全実行。退化する体に、せめてもの歯止め。
- ・「クロスワードパズル」のレベルUP。唯一の脳トレ。解けない口惜しさをバネにして挑戦。

●永年の夢

広島支部 長田 実

国連教育科学文化機関(ユネスコ)が10月、歴史的文書を対象とする「世界の記憶」(世界記憶遺産)に「朝鮮通信使に関する記録」を登録したとの大朗報を発表された。

副題は「十七世紀～十九世紀の日韓間の平和構築と文化交流の歴史」。なお朝鮮通信使とは国王が徳川将軍家に派遣した外交使節団のことで、

江戸時代には12回も来日していた。備後、鞆の浦にもこの世界記憶遺産登録が永年の夢であり、大喜び。

●ボウリング

広島支部 濱田 寛

私が、今没頭しているのはボウリングです。ボウリング教室で3人1組での対抗戦を10組で行っています。現在、私のスコアはアベレージが157なのですが、今年の目標は165以上にする事です。それほどきつくない健康法であり、(ほとんどが60歳以上です)喜んだり、悔しがりながら、又、時にはピアガールデンや忘年会を盛り込みながら週1回の集いを楽しんでいます。

●今年 of 目標

埼玉会 松本 浩

先日、自宅の書棚を整理しました。奥の方に、高校・大学時代の写真を発見し2時間程見とれていました。大学1年の夏休みに北海道一周を皮切りに、全国を周ろうと計画した事を思い出しました。それから45年が経過し、九州(宮崎を除く)、中国地方以外は制覇しました。

今年、岡山・広島を訪れ、日本三景・日本三名園は、安芸の宮島・岡山後楽園で完結するので、今年 of 目標としました。

囲碁会

■第54回 囲碁大会

秋の囲碁大会が、10月25日（水）に市ヶ谷の日本棋院で参加20名で開催されました。

対局ルール等の説明の後に囲碁宣言があり、対局が開始されましたが、体調を崩された増渕委員長に替わり、急遽委員長代行を小川九段にお願いいたしました。女性3名の参加もあり、和やかな中で熱戦が繰り広げられ、左記の優績者が決定しました。

Aクラス 優勝 岸上悦治 七段
二位 小川浄二 九段
Bクラス 優勝 弘中顕録 四段
二位 柴沼久子 初段
各クラス優勝者のコメントです。

Aクラス 岸上悦治 七段

思えば3年余り前、友人の小川浄二氏の紹介で当囲碁大会に参加させて頂きました。

当大会は暖かく家庭的な雰囲気と親睦感に溢れ、以後毎回仲間を誘つ

て参加している次第です。

この度は念願の有望を果し、感慨無量です。打ちおろす相手の石の響きも耳に心地良く、至福の時を得られ、日退協各位の御尽力に心より謝意を表します。

Bクラス 弘中顕録 四段

2年半前山口県から八王子へ転居した折、小川先輩から大会への参加を勧められ、3回目で運に恵まれ辛くも優勝させていただきました。

毎回感じるのですが、参加者の人柄が誠に良く、勝つても負けても気持ちの良い大会との印象が強く残っています。他の大会と同じく参加者の多くが高齢者であることを考えれば、私も誰かを誘えないかと考えている今日この頃です。（上村洋一）

江戸東京歴史散歩の会

■第85回 東急世田谷線沿線散策

（10月5日 参加者30名）

東急世田谷線は世田谷区の東部を縦断している地域密着型の路線です。

三軒茶屋駅から下高井戸駅まで約5kmの間に10駅を結んでいて、今では都電荒川線とともに数少ない路面を走る電車です。レトロな雰囲気や魅力の沿線は豪徳寺や松陰神社などの名所旧跡や、世田谷区役所をはじめとした行政施設が集まっているところとあります。平成30年は明治150年に当たります。当時に思いをはせて幕府の井伊直弼と長州の吉田松陰ゆかりの寺社を訪ね、幕末の歴史に触れてみました。

まず、江戸五色不動のひとつ、教学院の目青不動に立ち寄ってから、世田谷線に乗って豪徳寺に向かいました。ここは江戸の初期に彦根藩主井伊直孝が井伊家の菩提寺として伽藍を創建し整備したお寺です。またここは招き猫発祥の地とする説もあります。一説によると井伊直孝が猫により招き入れられ、偶然雷雨を避けることができ、和尚の放談を聞くことができたことを大いに喜び、後に井伊家の菩提寺にしたという。境内の一角には広大な井伊家の墓所が



東急世田谷線 三軒茶屋駅前にて

あり、井伊直孝や直弼など歴代藩主の墓が並んでいて、一見の価値がありますので見学をお薦めします。松陰神社は世田谷区と山口県萩市にある神社です。幕末の思想家・教育者である吉田松陰と彼の門下生を祭神とし、学問の神として崇敬を受けています。鎮座地にはかつて長州藩の別邸があり、松陰が安政の大獄

で刑死した4年後の文久2年、高杉晋作など松陰の門人によって小塚原の回向院にあった松陰の墓が当地に改葬されました。その後明治15年に門下の人々によって墓の側に松陰を祀る神社が創建されて、現在の社殿は昭和2年から3年にかけて造営されたものです。

今回はその他に建築家前川國男の作品として知られる世田谷区庁舎や国の重要文化財に指定されている世田谷代官屋敷・郷土資料館などを見学しました。(佐久間征二)

(11月8日 参加者24名)

■第86回 慶応義塾大学周辺散策
集合場所はJR「田町駅」。田町駅は改札口南北2か所あるが出口は1個所で、昼下りなのに数分毎に停車するJRの電車から降り来る人の多さには驚いた。一度に数百人はい

る。山手線には出口が1か所の駅は少ない。当然のことなのかとも思う。

田町と言えば薩摩藩江戸屋敷での1868年3月に行われた西郷隆盛・勝海舟の江戸無血開城の談判を思いだす。この談判が不成立だったから、海舟の考えていた江戸焦土策戦

が行なわれ現在の東京の姿が変わっていただろう。東京には歴史上著名な事物が数多くあるが何しろ大都会、今は味もそっけもない立て札しか見られないが誠に残念。

ちよいと昔の海岸べりに向かうと有名な落語「芝浜」の雑魚場があり、御穂鹿嶋神社も近い。

この地は泉岳寺にも近く討入り後の赤穂浪士を預かる4家の大名(水野・松平・毛利・細川各家)の1人水野監物の屋敷跡がある。

昭和の名残り深き三田の商店街を通り、慶應義塾大学へ。大学の年譜



慶応義塾 三田演説館前にて

によれば1858年聖路加病院の近くに蘭学塾を開き、1863年英語塾に変え、1868年(明治元年)慶応義塾と命名した。1871年三田に移転し三田演説館、1912年創立50年の記念に図書館を開館。今回残念なことに演説館は一般開放が中止され、図書館は改造工事中で二つの目玉共に見学も出来なかった。

驚いたことに三田にはかの光源氏の子孫と言われる美男の渡辺綱(大江山酒呑童子を退治した豪傑)に由来する地名がいくつもある。この綱さん埼玉の鴻巣生まれとの説もあるが、当地では三田の富光寺産と信じられており、「綱坂」「綱の井戸」等現存。

大名屋敷の跡地の三田には綱町三井俱樂部やイタリア、オーストラリアの大使館もあり、閑静な土地柄である。(高橋 淳)

園芸クラブ

■『菊花壇展開催中の新宿御苑散策』

(11月11日 参加者6名)

新宿御苑は、環境省所管の国民公園として良く知られた庭園ですが、

そもそもは徳川家康が江戸城に入城した際に譜代の家臣であった内藤清成に授けた江戸屋敷の一部がルートと言われています。明治に入り近代農業振興を目的とする「内藤新宿試験場」が設置され、明治7年には内務省所管の教育施設である農事修学校、明治12年には宮内省所管の「新宿植物御苑」の時期を経て、明治39年に皇室の庭園となりました。そして、戦後の昭和24年に「国民公園新宿御苑」として一般に開放され現在に至っています。

今回は、毎年恒例の「菊花壇展」開催中の新宿御苑をボランティアによるガイド・ウォーク実施日に合わせて散策することにしました。東京メトロ「新宿三丁目駅」に集合、昼食の後、御苑へ向かい、新宿門から入苑しました。ガイド・ウォークは「御苑一般」、「菊花壇展特定」、「菊花壇展と桜」、「菊花壇展と紅葉」からコースを選択し、10人前後でガイドの説明を聞きながら苑内を巡る方式で、私たちは「菊花壇展と桜」コースに参加しました。

散策の初めは、明治14〜15年の植物御苑当時に植栽されたユリノキ、

メタセコイア、タイサンボク、レバノン杉などの高木、次に江戸時代に交配した品種で開花中のジュウガツザクラやフユザクラ、12月頃開花見込のヒマラヤザクラと珍しい桜を、そして日本庭園内に上屋を設けて展示された菊花壇の懸崖作り、大菊、大作り、江戸菊・肥後菊・伊勢菊・一文字菊など苑内で丹精込めて育て上げた多種多様な菊花の逸品を興味深く鑑賞しました。植物に精通したベテラン・ガイドに恵まれ、内容豊富な説明に導かれた2時間の散策に参加者の満足度は高かったようでした。新宿御苑のガイド・ウオークはお奨めです。

(杉山 功)

鎌倉探訪

■第124回 鎌倉探訪

(9月21日 参加者20名)

藤沢は旧東海道6番目の宿場町である。また、江ノ島詣、大山詣の要衝でもあった。そして、今は湘南有数のベッドタウンとなっている。今回はそんな藤沢を歩く。「東海道の宿場町『藤沢宿』と開山忌法要の遊行寺を訪ねる」がテーマ。加えて悲

運の名将「義経」ゆかりの地も立ち寄る。

秋の好天の下、藤沢駅北口のモダンな広場に集合する。歩き始めると程なくして江の島弁財天道標。江戸時代の高名な管絃医杉山檢校が、寄進したもの一つである。

箱根駅伝でお馴染みの国道1号線の遊行寺坂を上り、東門から遊行寺に入る。関東随一の木造の本堂が威容を誇り、境内の大銀杏が歴史を語っている。本日は開山忌。普段は静かで広大な境内にも、人々が行き



清浄光寺

かっている。時宗の開祖一遍上人は、鎌倉時代に全国行脚をした事で有名だが、衆生済度を願い、「南無阿弥陀仏」を唱えて回られた。これが、後に踊念仏と呼ばれる。このため、当初はお寺を建てなかったが、四代吞海上人が当寺を建立したのだ。本堂の裏手には、小栗判官（はんがん）所縁の墓所が有る。浄瑠璃で名高い小栗判官と照手姫の物語だが、実在の室町時代の武将であり、ここに夫婦の墓と家臣及び愛馬の墓が仲良く並び立っている。

門前の「ふじさわ交流館」にて昼食を取りながら、ガイド協会の方から宿場の歴史や街道の成り立ちの説明を伺う。館内のジオラマや展示物で藤沢宿の昔や当時の旅の苦労が良く分る。交流館を出ると街道筋には本陣跡や昔乍らの蔵等が残り、湘南のモダンなベッドタウンと一味違う趣があった。

暫く歩くと白旗神社。源義経が祭神。奥州で討たれ鎌倉に運ばれた義経の首が、腰越から波に乗って藤沢境川を遡り、此の地に流れ着いた。村人に手厚く祀られ、後日頼朝により、白旗神社が建立されたと言われ



時宗総本山 清浄光寺前にて

ている。鎌倉の隣町ならではの史跡と言える。近くの莊嚴寺には義経の位牌が安置されていた。江戸時代の住職が義経の菩提を弔う為に造ったもので、鎌倉時代を遥かに過ぎた後も、判官（はんがん）鼻肩が強かった証だ。

すぐ近くの永勝寺には飯盛り女の墓が有り、身寄り等の無かった旅籠の女性たちが葬られている。江戸時代に「小松屋」の主人が奉公人を分け隔てなく自分たちの墓域に墓を整

えさせたもの。頼朝による弟への仕打ちと何と違うことだろう。

鎌倉に隣接した藤沢は、時代々々の影響を受けながらも、今も人気ある湘南の住宅地として栄えている。歴史の流れをモダンな家屋の向こうに垣間見た1日だった。歩き疲れを癒すため、旅籠ならぬ居酒屋で一杯。一遍や街道往來の旅人の不屈の歩きに脱帽、乾杯！ (加藤文男)

■第125回 鎌倉探訪

(11月29日 参加者33名)

今回の鎌倉探訪のテーマは「錦秋の鎌倉 長谷寺や旧山本邸の紅葉を楽しむ」

江ノ電鎌倉駅から長谷寺へ向かう。駅から大仏様への道は、観光客で一杯だが、一歩脇道へ入ると嘘の様に静かだ。谷戸の奥にある鎌倉能舞台を訪ねる。昭和45年に創建された鎌倉の能文化の発信拠点だ。幽遠な芸術を味わうには相応しい場所。見所にて解説を聴くにつけ、能楽の奥の深さが感じられた。

隣り合わせの広大な敷地に建つのが旧山本邸だ。今は宗教法人の所有管理不動産で、国の有形文化財になっている。一般公開はされず、見

学申請があれば、特別に拝観できる。広さは約5000坪、建屋面積150坪。当時京都から持ってきた銘木を庭に植え、良質の建材を使った数寄屋造りの瀟洒な和風建築である。建物内は手の込んだ欄干や数寄をかさが伺える。しかし一番の華やかさからの海の眺めだ。紅葉の楓(京都から移植した)を前景に、真

向いの青い海が遥かに空へと続いている。まるで日本画の世界だ。庭を回遊し、鎌倉の錦秋を大いに満喫できた。

長谷寺にて昼食をとる。坂東三十三番観音霊場の札所であり十一面観音像で著名だが、花の寺としても有名。しかし本日は紅葉名所として参拝客で賑わっている。此処からの海の眺めも素晴らしい。紅葉と海の取り合わせは、紅葉名所ではあまり類を見ないように思うがどうだろう？

門前の対僊閣は明治開業の旅館で市の重要建築物。しつとりとした佇まいが旅愁を誘うような造りだ。

住宅街を抜け、川端康成邸を横手に見ながら進むと、甘縄神明神社の

鳥居が有る。鎌倉で最も古い社で、源頼義・義家父子に所縁のある神社だ。

長谷のそぞろ歩きは続く。大正に諸戸邸だった洋館が、国の有形文化財として長谷子ども会館となっているが、我々大人は入館禁止なので、前を素通り。やはり国の有形文化財である鎌倉文学館へ。時間の都合から玄関へのアプローチで紅葉を愛でる。何しろ此処は加賀百万石のお殿様だった旧前田侯爵邸である。アプローチだけでも十分に紅葉が楽しめるのだ。

吉屋信子記念館の玄関先を通り、由比ガ浜通りのランドマークの一つである寸松堂を訪ねる。高名な鎌倉彫の店だ。寺と城が組み合わされた様な建物。国の有形文化財である。ご店主のお話を伺いながら店内を見物した後、鎌倉駅への帰路につく。

小春日和の天気にも恵まれ、また女性参加者が多かったこともあり、錦秋の長谷の路地巡りは、随分と華やいだものになりました。

(加藤文男)

カラオケ会Ⅱ

カラオケ会Ⅱの最近

カラオケ会Ⅱは偶数月の第三土曜日に開催しています。

●開催場所が松戸に変更

従来カラオケ会Ⅱは立地の良い銀座で開催していましたが、昨年の4月15日(発足以来、第35回目の日に当る)より場所を松戸に変更しました。世話人の立場からすると、はた



松戸でのカラオケ風景

して松戸に今迄の参加者が足を延ばして頂けるかが心配でした。そこで会員の皆さまに諮ったところ、

1、会場が広く、ステージをそなえてゴージャスな部屋構え

2、カラオケにはもともと大切なオーディオ設備などが完備、歌手になったようで思い切り唄える

3、最寄りの駅から5〜6分の至近距離

4、開催間隔が2ヶ月、更に店の経営者が非常に丁寧で積極的なこと

等のご意見で問題なしと判断して松戸に変更しました。

松戸進出後、6月、8月、10月とそれぞれ毎回、10人前後の方々に参加して頂き、順調に推移しています。

特に10月は協会のイベント「はつらつふれあいの集い」の展示用のパネルに載せる会員の写真撮影、イベント当日の会場では「憧れのハワイ航路」を披露しましたが、競演する他のカラオケグループに比し、「流石」だと言われるようにと、参加者全員が何度も唄い、会は大いに盛り上がりました。

これも偏に合唱できる大きな松戸会場だからこそだと思っています。

銀座から遠くなったというハンディを店の方で精一杯の気持ちで込めて対応して頂き、料理、飲み物等も銀座時代に引けを取らないものだと参加者の方々にも満足されているだろうと思っています。

12月は1年最後のカラオケ会、会の忘年会とクリスマス会を兼ねて、カラオケ会Ⅱの皆さまと楽しい1日を過ごしました。

カラオケを楽しみたい方、どうぞお気軽にご参加ください。

(西納政光)

サロンコンサート

■第42回 サロンコンサート

(11月21日 参加者72名)

今回の会場は、昨年のマリンバコンサートに引き続き赤坂見附駅より徒歩10分の「グローバルユースビュロー」社所有のコンサートホールをお借りできました。客席80名、音響効果、照明設備共に素晴しくお洒落な小ホールです。コンサートのテーマは「ピアノとギターで贈る懐しの

唱和の銘曲選」でした。ピアノは阿部篤志氏、ギターは諏訪東風氏による演奏でした。阿部氏は都内を中心にピアニストとしてのライブ活動、更に様々なアーティストへの楽曲提供と著名なシンガーとの共演と幅広い活躍の実力者です。ギタリストの諏訪氏も同じくライブでの活躍、夢弦ギター教室の主催、自然体なアコースティック・サウンドを追求する素晴らしいミュージシャンです。映



阿部篤志氏 (ピアノ) と諏訪東風氏 (ギター)

画音楽をメインにした曲目はお2人方の息の合った進行で大いに盛り上がりました。楽しい内容のコンサートで皆様「良かった」の声が大でした。

(湯藤 哲)

四季の会

■第14回「四季の会」老舗旅館内部

見学と昼食会

晴天の10月11日、21名の参加で、箱根の老舗旅館「福住楼」と「一の湯」に向かいました。箱根登山鉄道塔ノ沢駅で下車し、「深沢銭洗弁天」でお浄め。次いで文化財の宿「福住楼」へ。1890年(明治23年)の創業で、数寄屋づくりの建築物として有形文化財に登録された貴重な日本旅館です。「竹の美しさ」が特長で、銘竹をふんだんに使った国宝級の建物だとか。竹は見た目にはやさしくても、建築材としては手間や価格は大変なもので、そこには創業者の強い意志を感じました。夏目漱石、福沢諭吉、島崎藤村、坂東妻三郎など多くの文化人が、お気に入りの部屋を指定して常宿とされていたのは、建物のよさだけでなく、日本旅館と



福住楼にて

してのおもてなしの心があったからこそでしょう。

ランチはすぐ先の「一の湯本館」で。安藤広重の浮世絵にも描かれている、当主で15代目の格式のある旅館です。関東大震災にもビクともしなかったというご自慢の4階の大広間は、レトロなダイニングに変身。広い窓から入る爽やかな秋風と上品なお弁当は、老舗旅館ならではの安らぎがありました。(豊田和子)

詩吟会

早いもので発足以来5年目の節目を迎えた。「読んで、のぼして、ふる」という吟詠の基本を指導者である薄井是道先生から叩き込まれ、全くの素人だった全員がしっかりと声が出るようになり、外部大会の合吟・独吟に挑戦して、手応えのある成果も得られるようになった。

恒例の年一度の「温習会」(おさらい会 8月24日)も4回目を盛大に開催した。女性師範代、尺八生伴

奏の先生も迎え、1年の成長を確認し合った。

外部大会は、1月に松口月城記念2月は東京都吟剣大会、6月はBO X吟詠会、11月は日教吟振興会などに合吟・独吟に有志が参加した。

当面、漢詩の味わいとともに課題は俳句・短歌・新体詩という新たなジャンルにも挑戦して、お互いに年齢を超越して吟詠の深みを楽しみつつ追求してゆきたいと願っているところ。毎月第4木曜日の午後、本部談話室で練習していますので、どうぞ見学においでください。

(芝山 茂)

自然を楽しむ会

■第59回 四季の森公園

(6月1日 参加者32名)

横浜線中山駅から南へ緑の美しい小道を1km弱歩くと県立「四季の森公園」の北口です。45haの広いエリア内に森・丘・池・広場・水田など田園風景が多彩に織り込まれています。散策に来る人も多く、子供の遊び場としてもってこいの公園です。

急坂の多い南辺は避け、なだらかな道を巡回しました。キブシ、ミツ

バウツギ、ヤマボウシ、モミジガサ、スイレンなど様々の花や実が綺麗でしたが、中でも公園目玉のハナシヨウブはちょうど見頃で、すぐ脇の広場でめいめい持参のランチを楽しく食べました。

東口からバスで中山駅まで戻り、解散。

16名が駅北口サイゼリヤでの懇親会に参加しました。

■第60回 薬師池公園

(9月14日 参加者20名)

町田駅近くから鎌倉街道をバスで15分、薬師が丘で下車、薬師池公園に入る。最初は名物の古代ハス(大賀蓮)ばかりのハス池。アジサイ園脇のヤマホトトギス、スイレン池、キンギョ葉ツバキ、自由民権運動モニュメントなど見ながら中央部の薬師池に到着。池畔での昼食休憩のあと藤棚、ハナシヨウブ田を経て、江戸時代の医家を移築した旧荻野家を見学、隣接の萬葉草花苑に入る。萬葉草花70種が他の野草250種のかに多彩に植込まれ見ごたえのある一画でした。

裏門から出てバスで町田駅に戻り解散。参加者の8割が駅東のファミレスで懇親しました。今回はキャンプの持寄りが非常に多くて、世話人が1人では持帰れず、3人に分けました。

■第61回 神代植物公園

(10月12日 参加者18名)

自然を楽しむ会は再スタートから14年ですが、初めて今回ここをイベント会場に選びました。都立では唯一の植物公園で、49ヘクタールの園内に4500種、10万株の植物が区分けして植えられ、四季折々多彩な花や実で埋められます。シニアの入園料は250円です。

今回は調布駅に集合しバスで公園まで。好天下で秋の公園散歩を楽しみました。バラ園や大温室など大衆的な区画は敢えて避け、皆さんが初めてのルートを主体に歩いた結果、最後に回った水生植物園も含めて、秋らしく多くの珍しい木の実を目にし、その美しさに感嘆したものでした。イイギリ、ガマズミ、マルバチシヤノキ、シロシキブ、アブラチャン、ヤブコウジ、クロガネモチ……
深大寺バス停から調布駅に戻り、

3時半に解散。駅南のジョナサンで15名参加の懇親会をにぎやかに行いました。
今回はミニミニ図鑑#25を配布。
(店網俊夫)

水墨画教室

■公募第32回日本水墨院展開催

(於国立新美術館 6月28日～7月9日)

国立新美術館での開催も11年を迎え展示会場の雰囲気も増々重厚さを感じさせる日本水墨院展です。我が日退協水墨画会も第19回展より参画、本年をもって13回目の展覧会出品となりますが、講師飛田硯水先生の指導よろしく4名の入賞者を輩出しました。このたび受賞された方々は次



東京都知事賞
須釜汀水「瀑布」(100号)



秀作賞
宮田教子「春近し」(30号)



新潟日報社賞
山尾岳水(陸中海岸)「三王岩」(50号)



審査員奨励賞
土井孝雲「渡月橋」(50号)



第21回 日本水墨院研修会の様子

受賞された方々に心よりお祝いを申し上げます。益々のご活躍を祈念致します。
■第21回 日本水墨院研修会に参画
(於ハピネスケア四谷10月6日)
日本水墨院主催であります。一般の同好の方も参加出来る会です。

- 東京都知事賞
須釜汀水「瀑布」(100号)
- 審査員奨励賞
土井孝雲「渡月橋」(50号)
- 新潟日報社賞
山尾岳水「三王岩」(50号)
- 秀作賞
宮田教子「春近し」(30号)

の通りです。

今回は、講師伊藤昌先生（総合水墨画展委嘱審査員）による実技指導と講演が行なわれ盛況でした。参加費は500円、場所も（四谷駅徒歩2分）大変便利な為好評でした。

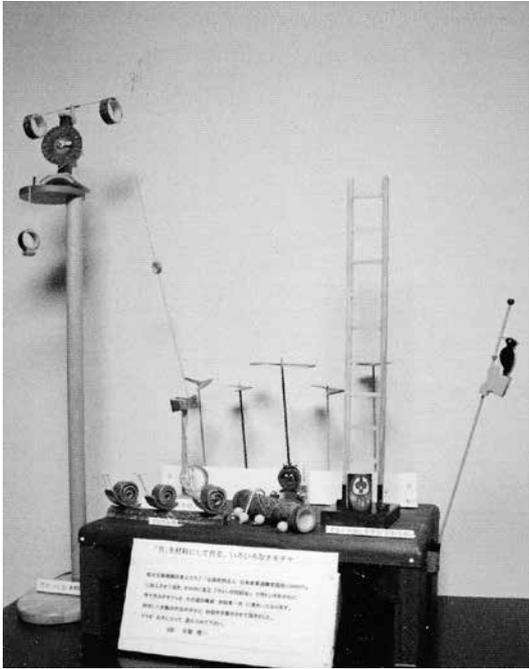
（須釜栄作）

竹とんぼ同好会

今回は、参加者の1人、古賀さんを紹介させて頂きます。彼は元銀行員で、筋金入りのアマチュア無線愛好家です。送受信機も自作で真空管に拘るところが物づくりを楽しむこの会にピッタリだったようです。

そんなDNAもあって、綺麗に整理された道具箱

持参で参加され、今までの作品も自宅で綺麗に保管されているのだそうです。一方、私達の手先の状態を見かねてか、作業に適したピンセットを寄贈いただき、大助かりしてい



自治会文化祭での展示

るといふ、優しい人格の持ち主でもあります。

そんな彼が「竹とんぼ同好会」の作品で地元の自治会文化祭デビューをされました。日頃の彼を知る人たちからは作品の素晴らしさとともに「こんな楽しい過ごし方をしているのか」と上々の評判だったそうです。この中から日退協・京葉会への参加者が現れると嬉しいですね。

日退協にとって会員の増強と若返りは必須の課題。そのため私たち同好会の責任者として一層の活性化による接点の拡大を図り、協会の更なる繁栄に繋がりたいと思っています。

（富川 正）

男声合唱クラブ

■男声合唱クラブ「フェローチェ」

昨年の夏、退職者協会内の文化サークル活動としてスタートしました。練習は男声合唱クラブ「フェローチェ」の一員として参加しています。

伴真純さん（二期会会員オペラ歌手）の指導で、練習場所は高田馬場の新宿区戸塚地域センター音楽室、練習日は木曜日、月2〜3回です。

活動実績は次のとおり、イタリア語の曲（帰れソレントへ、海は招く、オペラ ナブッコより）にチャレンジしました。

9月22日 ロビーコンサート

（ホテルグリーンプラザ箱根）

10月25日 はつらつふれあいの集い

（日暮里ホテルラングウッド）

11月12日

小平市秋の合唱祭（ルネ小平）

1月13日 「みんなであわ〜つと歌

おう会」音楽ピアプラザ・ライオン

（今後の活動予定）



小平市秋の合唱祭にて

2月4日 西武沿線男声合唱団
第6回交歓演奏会
5月20日 春の小平合唱祭
（関谷 二郎）

築地海鮮井川柳会

平成29年10月14日、「秋の吟行会」を柴又で行いました。まずは駅からの参道を通り、「帝釈天」に着きました。次に日本庭園が見事な「山本亭」へ、続いて「寅さん記念館」で、「男はつらいよ」のおなじみのメニューと会い、「山田洋次ミュージアム」で山田映画の真髓にふれました。その後、「矢切の渡し」を眺めなが



帝釈天前にて

ら江戸川堤を散策し、昼食場所の「川甚」に到着し、昼食を食べながらの句会となりました。当日の各人の囁目吟（柳号順）

寅さんの帽子いつでも温かい あさじ
運勢は帝釈天にも見放され 一星
寅さんの意外な中味旅カバン 和子
ミニチュアも鋤持つ昭和なつかしい 南穂子
川甚に来て騒ぎ出す腹の虫 ひま人
押す人乗る人人車という格差 弘
活動屋裏方苦労かいま見え 瑞男
帝釈天雨にあたって光る門 道花
句会ではいつもと違い、アルコー
ルも入り、賑やかなムードで津田暹
講師の指導も一段と熱が入りました。
尚、当日欠席の方の近作です。
原爆の日総理の言葉宙に浮く 弘純

当会は、毎月第2土曜日の午後1
時30分より午後4時頃まで、「日退
協会議室」で、「月例会」を行って
おります。講師は、全日本川柳協会
理事の津田暹先生です。
日退協の会員の皆様、ご家族の皆
様、お知り合いの皆様、どうぞお気
軽にお越し下さい。

（稲葉あさじ）

デジカメクラブ

デジカメクラブの平成29年度後半
のイベントとして平成29年11月29日
（水）東京都北区の飛鳥山公園で
「紅葉の撮影会」を開催しました。
飛鳥山公園は、八代將軍徳川吉宗
が享保の改革の一環として整備・造
成を行った公園として知られている。
当日は、前日の雨模様から
一転天気も良く、赤と黄色の美しい
風景を各自思い思いの場所で撮影を
楽しみました。

その後公園近くの飲食店でお昼の
会食と団欒をしてお別れとなりまし
た。楽しい一日でした。

12月のデジカメクラブの例会では、
飛鳥山公園で各自が撮影した写真を
協会のパソコンを使って披露、意見
の交換などとして撮影技術の向上に努
めました。

デジカメクラブの例会では会員が
デジカメで撮影した画像を会員に披
露するのも写真に印刷したものを見
せるのではなく、USBメモリーに
保存して持参、談話室にあるパソコ
ンのモニターで披露するのが通例と

なっています。

デジカメクラブでの最近の話題
は、

- ①旅行先で撮影してきた写真。
 - ②東京の街を散歩しながら撮った散
歩写真などの披露。
 - ③プリンターの故障の対応等デジタ
ル写真の周辺を取り巻くテクニカ
ルな面の紹介など。
- デジカメクラブは、楽しいクラブ
です。ぜひご参加ください。
毎月第1水曜日午後1時半開催で
す。
（鈴木新太郎）

歴史を考える会

■第164回 日本と朝鮮半島二千年
第4回 そして日本が生まれた

講師 高川博会員 （6月26日）

7世紀初頭、中国に統一王朝・唐
が出現。朝鮮半島では百済と敵対し
ていた新羅が高句麗とも対立、唐に
支援を求めていた。この頃実権を
握っていた蘇我氏は百済寄りの政策
を行っていたが、645年政権内部
の対立により蘇我入鹿が暗殺された。
乙巳の変（大化改新）である。

660年、唐・新羅によって百済

が滅亡し、斉明天皇は百濟復興軍を支援するために軍を派遣した。倭軍は白村江で唐の水軍に壊滅的打撃を受け、百濟遺民を引き連れて撤退した。唐・新羅の侵攻を恐れた天智天皇は、大宰府の水城を始め多くの百濟式山城を築き、防衛体制の整備を図った。668年、唐・新羅は、ついに高句麗を滅ぼした。倭国にとって幸運なことに、その後唐と新羅は

占領地を巡り対立するようになり、両国から倭国へ秋波を送ってくる情勢となった。

壬申の乱という皇位継承争いに勝った天武天皇は、唐に倣った律令国家の建設に向け、国内の体制を整え国号を「日本」と定めた。

701年には大宝律令を制定するとともに遣唐使を派遣し、新たな国家として立ち上がったことを内外に向けて宣言した。

■第165回 日本と朝鮮半島二千年

第5回 日本海の道

講師 高川博会員 (9月25日)

弥生時代末期から古墳時代の日本海側の各地からは、朝鮮半島各地との交易や交渉を窺わせる遺物が多く出土している。やがて6世紀になる

と越の国と深い関わりを持つオホド王がヤマトの大王(継体天皇)として即位する。

7世紀末、唐・新羅によりいったん滅亡した高句麗の末裔は、靺鞨の人々を併せて、中国東北部に渤海国を立てた。727年(奈良時代初頭)、渤海から初の使者が日本へ到来する。

当時、渤海は唐・新羅と敵対しており、日本との軍事同盟関係を模索していたが、その後の唐の内乱により緊張が和らいだために、次第に交易関係を主とする方向へと変わっていった。

渤海と日本を結ぶ道は日本海の海上ルートであった。この当時は既に両国ともに帆を備えた構造船であったが、新羅との関係が悪く、朝鮮半島東海岸に立ち寄れない航路は、大変厳しいものがあつた。そのため、最初の遣使団一行は東北の蝦夷地に漂着し、多くの団員が殺された。その後東北から山陰まで、ほとんど

漂着に近い形で到来であったが、次第に能登半島、敦賀あたりに到着するようになる。彼らのもたらした毛皮類は大変な人気だったという。

■第166回 日本と朝鮮半島二千年

第6回 蒙古襲来の衝撃

講師 高川博会員 (11月27日)

13世紀に入ると、遊牧騎馬民族のチンギス・カンがモンゴルを統一。以後帝国は拡大を続け、わずか60年足らずで極東からヨーロッパに至る巨大な版図を手にする。

その絶頂期に君臨し、文永の役(1274年)、弘安の役(1281年)と二度にわたり日本への攻撃を命じたのがクビライだ。高麗王朝は1259年にすでに蒙古に降伏していた。高麗の軍人集団・三別抄は珍島や濟州島に移り抗戦を続けていたが、最終的には壊滅する。

朝鮮半島の反対勢力を鎮めた蒙古(元)は高麗軍を引き連れ日本へ攻め入る(文永の役)。そして7年後には元と高麗に旧南宋軍を加え、合計14万人で再び九州へ攻め寄せた(弘安の役)。

この時、台風(暴風雨)により元軍は壊滅した、と云われる。確かに台風という自然の猛威が大きな要因となったことは否めないが、鎌倉幕府や九州の御家人の防衛力にも注意を致すべきである。日本は博多湾を

中心に防塁を築き、敵の橋頭保造りを許さなかったのである。また元は3度目の日本侵攻を計画していたが、その間大越国(ヴェトナム)遠征に失敗したことも幸いした。

一方この間、両国の間には民間交易は存続しており、政経分離状態だったことは注目し値する。

「予定ください！」

主な行事日程のご案内 <事務局>

本年の主な行事日程が左記の通り決まりました。多数の皆様方にご参加頂たくご案内申し上げます。

記

●第14回チャリティコンサート

日時：平成30年6月23日(土)

午後1時30分開場

午後2時30分開演

会場：六本木 ハリウッドホール

入場券については後日ご案内します

●はつらつふれあいの集い

日時：平成30年11月6日(火)

午後12時～

会場：日暮里 ホテル・ラングウッド

神奈川会

■第54回イベント

「防衛大学校」訪問・見学

(5月29日 参加者32名)

今回は予想をはるかに上回る60名近い応募があり大変驚かされました。当日は晴天に恵まれこともあり、3時間以上もかけて来られた方も数名おられたのに、集合時間の15分前には全員が集合しました。

さて、本日の訪問先は、三浦半島の東南端にある観音崎灯台の近くにある小高い丘の上に、約60万平米の敷地に20万平米にも及ぶ建物・施設を有して陸海空の幹部自衛官を育てる特殊な大学校です。その性格上、施設内に入るには事前の登録と当日の本人確認がチェックされますが、入ってしまえば専門の案内員が丁寧に分かりやすく説明してくれ、大変有意義な90分を過ごせました。現在、13の国々から100名を超す留学生を受け入れて共に学んでいるそうで

す。圧巻は昼食後に午後の課業が行われる施設に向かう総勢2000名の生徒が、学年グループ毎・課業毎に異なるお揃いの服装で掛け声を掛けながら行進する隊列の美しさでした。

私たちのツアーグループには家族連れが一緒に参加していましたが、とても熱心に観て、質問をする小学5年生の女の子がいました。尋ねたところ、母親に強く頼んでやっと見学に来れたとのこと、将来はここに入りたけれど私にはちよつと無理かなと少し興奮気味に話してくれたのが印象的でした。皆さんにとっても思い出となる一日であったと思います。

(奥村 進)

■第55回イベント「古民家で落語会」

(6月19日 参加者49名)

「四季の会」(糸数代表)と「神奈川会」(長澤代表)による初めての共同開催(コラボ)となった落語鑑賞会を成功裡に終えることができた。参加者49名(女性31名)、うち懇親会出席者29名という盛況さであった。

横浜市営地下鉄センター北駅に集合し、都筑民家園まで徒歩10分の大塚・歳勝土遺跡公園に移築された江戸時代の民家「旧長沢家住宅」が開催場所である。館長の民家園の紹介挨拶が落語の伝統に趣を添えたところで、開演。橘ノ百圓さんの「猫の皿」、六法亭無生さんの「八五郎出世」そして中入り後は、無生さんの「時そば」、百圓さんの「質屋庫」と続き、笑い続けた2時間であった。お2人は日本大学落語研究会のOBで公演実績も豊富なセミ・プロの技

量をもつベテランであり、その話術は古民家の雰囲気によく溶け込んだものであった。終演後、解散となったが大勢の方が遺跡群を散策し、出演者共々懇親会場に向かわれた。

今回は主に四季の会の動員力と神奈川会の人間力のコラボであったが、

イベント成功の主因は両会の緻密な協働体制によるものだったと確信している。

(中井順一)

■「いのちの電話」の講演会を開催

(8月8日 参加者26名)

この度、悩める人々の相談を電話で受ける「いのちの電話」の活動実態について、「横浜いのちの会」事務局長の花立悦治氏から貴重なお話しを伺いました。

「いのちの電話」の発祥は今から64年前にイギリス国教会の神父が、悩みある人の助けになりたいと新聞に、「死ぬ前に電話を！」との一行広告を出したのが始まりで、日本では賀川豊彦が関係していた「望みの門」が46年前にスタートさせたのが始まりとのこと。「いのちの電話」の組織は徹底したボランティア活動で成り立っており、その体制と相談を受けるときの基本姿勢は以下の通りです。

- ①悩み苦しんでいる人達が最後の拠り所として電話を掛けてくるので24時間受付体制で対応する
- ②まずは相談者の悩み事をお互い的心が通うまでじっくりと聴き、共感し、受容してあげること
- ③解決策の回答は自身で出すように仕向け、相談員側の判断は提起し

ない

現在、電話相談員は全国で6500人、年間70万件の電話を受けているが、絶対数が足りずその増員が強く望まれています(電話がつかないため受話器を握ったまま自死した例もあるとのこと)。また相談員はすべての費用を自分持ちの徹底したボランティア活動である上、個人の機微に触れるため選定基準も厳しいですが、人助けをする場を求めている方がいらっしやれば、是非応援して頂きたいとのことでした。

講演会には日退協の湯藤理事長はじめ26名が出席。参加者は相談員の崇高な活動ぶりに心を打たれ、熱心に拝聴、質問も多く、あつという間の2時間でした。(新島 健)

■第56回イベント・「旧吉田茂邸」見学と「旧三井別邸庭園」散策

(9月29日 参加者37名)

懸念された天候も朝から快晴。37名全員が定刻前に大磯駅に集合しました。駅前からバスで目的地の城山公園に向かい、先ずは三井別邸庭園を散策。公園の中心部に位置する展望台からの眺望は素晴らしく、三浦半島、湘南海岸、相模湾、大島、真

鶴岬、伊豆半島、振り返れば箱根の山々、富士山が顔を出していました。早めの昼食の後、案内図を頼りに各自園内の散策を楽しみ、再集合後隣接する旧吉田邸に移動しました。

3人のガイドの説明で見学したこの吉田邸は、明治17年に創建されましたが、平成21年に失火で焼失し昨年4月に再建されたばかりの人気スポットです。約1万坪の敷地に旧邸を忠実に復元した数寄屋建築の邸宅と見事な池泉回遊式庭園が配置された第一級のお屋敷です。

吉田氏は、この屋敷に内外の要人を招いて政治、外交の場として活用する傍ら、終の棲家としてこよなく愛していたそうです。柵目の檜をふんだんに使った邸内は金の間(居間)、銀の間(寝室)、楓の間(応接間)をはじめ書斎、広い食堂など宰相の邸宅らしい堂々たる佇まいでした。自然の地形を生かした庭園は心字池と相模湾に面した丘を中心とした散策路が整備され、はるかサンフランシスコを見つめる吉田氏の銅像が印象的でした。

懇親会は21名参加し、平塚駅近くで実施しました。(飯田吉辰)

■虹の子作業所・最後のバザーを実施

(日退協9名、関係者2名が参加)

11年間積極的に参加支援してきた「虹の子バザー」は、父母の高齢化、職員の手不足等から今後の開催が困難となり、10月14日(土)、小雨の中で恒例の深沢小学校体育館を借り切つての最後のバザーを開催し、皆に惜しまれつつ無事幕を閉じました。

入札方式で毎年バザーを盛り上げてきた日退協の「オークションコーナー」では、51点の出品物を計11名の連携プレーで見事に完売。終了時には虹の子会の江上会長、作業所の中川所長が挨拶にいられて感謝と一抹の寂しさを表明され、当方からは今後も作業所作品の販売支援を続けたい旨申し出ました。

因みに今回までの日退協の販売支援状況は、バザー13回、個人親睦会等での作業所作品販売15回分を合わせ計134万円強となりますが、皆様から頂いた良質のバザー用献品、作業所作品の購入協力の大きさに日退協は高く評価・感謝されています。最後に、6月24日のチャリティコンサートで大量の作業所作品を完売



「虹の子作業所」の子供達と

し、売上金3万6000円を持参して作業所で状況報告を行った際は子供たちが余程嬉しかったとみえ、歓声をあげて集まってくれました。その時の写真をご掲載して子供達の喜びの姿をご覧頂き、子供達からの感謝メッセージの代わりとさせていただきます。(新島 健)

京葉会

■第1回・京葉会サロン

(9月5日 参加者25名)

この度、京葉会では会員間の親睦を目的に、「京葉会サロン」を立ち上げ、記念すべき第1回目を開催し



第1回 京葉会サロンの様子

ました。この会はお昼を食べながら、またお酒を飲みながら、時にはテーマを設けたり、時には雑談に花を咲かせたりと多くの方が気軽に話しかけてみたくなるようなサロンを目指していくものです。1回目のテーマは京葉会世話人吉川敏孝氏による「ねんねんコロリよりピンピンころり」です。

先ずはお昼ですから、コンビニから取り寄せたお弁当を楽しみました。出来立ての暖かいご飯に味噌汁付きが皆さんに大変好評のようでした。本題は参加者全員の簡単な自己紹介から始まりました。そしていよいよメインテーマに入ります。日本人

の平均寿命は驚異的に伸びています。しかしそれが寝たきりの状態で長生きしても意味がありません。健康で長生きして苦しまないでコロリと死ぬのが理想的な死に方です。ではその健康で長生きするにはどうすれば良いのか。講師による巧みな話術によって皆さんを現実の世界へと引きよっていききました。世界や日本の平均寿命の比較や医療の分野まで細かく説明があり、日常生活の中でストレスを取り除いて大いに笑って毎日を過ごしていくことも長生きの秘訣と説いていました。

後半はびんびんコロリに関連して、全員による川柳の発表会があり、名句や迷句に拍手喝さいの連続でした。続いて本日のもう一つのテーマである懇親会が始まりました。会費1000円の予算でしたが、地方の銘酒と美味しいつまみを主催者側から用意していただき、おまけにビールも飲み放題といった大盤ふるまいで、いつ果てるともなく宴が続きました。

京葉会サロンは毎月第2水曜日に開催していますので、皆様のご参加をお待ちしています。(佐久間征二)

■京葉会 第24回イベント

「菓鴨地蔵通りと飛鳥山公園散策」

(10月3日 参加者20名)

今回は「お年寄りの原宿」として有名な菓鴨地蔵通りの散歩から始まりました。前日の雨の予報が一転好天に恵まれ、京葉会のイベントは雨が降らないというジンクスは今だ健在なりました。

この地蔵通りは旧中山道にあたり、江戸の中期から現在にいたるまで、商業や信仰の場として栄えてきたところでした。一行は買い物やお茶などの接待を楽しみながらのんびりと歩き、とげぬき地蔵で親しまれている高岩寺に到着。境内に安置されている聖観世音菩薩像は洗い観音として有名で、水をかけ自分の悪いところを洗うと治るといふ信仰がいつか生まれてきました。皆さん観音像に水をかけ、神妙に洗っている姿は微笑ましく映りました。どうかご利益がありますように。

お昼は近くにある大正大学の展望レストランで美味しいランチです。めいめいビールやワインも入って至福の時間を過ごすことができました。後半は懐かしい都電に乗って王子

の飛鳥山公園まで移動です。かつては東京のどこにでも走っていた都電もこの荒川線が唯一の路線となりました。最近では外国人観光客にも分りやすいように、愛称を一般から募集した結果、「東京さくらトラム」に決定したようです。

飛鳥山公園を桜の名所に仕立て上げたのは、八代將軍徳川吉宗でした。享保の改革の施策のひとつとして、江戸っ子たちの行楽の地とするため、飛鳥山を桜の名所にしたので。公園の入り口にある可愛いモノレールは、高齢者、障がい者や小さなお子様連れなど誰もが利用しやすくするために設置した昇降機です。レール



昼食後の大正大学にて

延長48m・片道2分であったという間に頂上に到着しましたが、しばし童心に還った楽しい瞬間でした。園内には北区が誇る博物館が3館設置されていて、どれも見応えのある展示物で思わず時間を忘れてしまうほどでした。最後に王子駅前で懇親会を行い、美味しいお酒と料理で和気藹々と楽しい時間を過ごしました。

(佐久間征二)

埼玉会

■「所沢ゆり園」見学

(6月16日 参加者16名)

■「造幣局さいたま支局」見学

(7月18日 参加者28名)

■「納涼会」……大宮

(8月3日 参加者22名)

■「秩父札所めぐり」半日コース

(11月17日 参加者13名)

快晴。12時秩父鉄道・御花畑駅に13名集合。まずは、札所13番「慈眼寺」へ。ここの本尊は聖観世音菩薩で、本堂の直ぐ右にある薬師堂は目の守り本尊として有名。皆様の目を災難・病気よりお守りくださいと祈願。次に行ったのが「今宮神社」こ

こは秩父霊場発祥の地で、平成の名水百選にも選定された武甲山の伏流水が湧き出る「龍神池」、樹齢1000年を超えるケヤキのご神木（ハート型の穴があり恋愛成就が適う）などがあり、とても静かで気持ちの良い神社でした。

次に、14番「今宮坊」。本尊の聖観音像は、弘法大師の作と伝えられています。ここには、樹齢300年といわれているケヤキの大木がありました。

ここから14〜15分歩いたところにあるのが16番「西光寺」。ここには四国八十八ヶ所霊場のご本尊の写しを奉祀した回廊堂があつて、ここに入りご本尊を全部拝むと四国霊場をお参りしたと同様の功德が得られるとのこと。私も例外なく一回りさせてもらい、霊場周りの雰囲気を感じさせてもらいました。また、ここには大きな酒樽にわら屋根を乗せた珍しいお堂がありました。このお堂右横には、きれいなお顔をされ徳利をかかげた観世音菩薩様の立像がありました。

次に向かったのが徒歩約15分の17番「定林寺」。この寺の鐘楼には西

国・坂東・秩父の観音像が彫られた銅鐘があり、この鐘の周りを一回りして、功德を頂きました。

さて、ここからは約15分歩き秩父鉄道・秩父駅近くの「秩父神社」に向かう。この神社は荘厳で、社殿の彫り物（子育てのトラ・お元氣三猿・北辰の鼻など）もすばらしく、いつでも訪れたい場所のひとつです。

最後は、15番「少林寺」。この寺は、白色の漆喰塗りで仕上げた本堂で、札所中唯一の土蔵作りの寺です。この寺には、「秩父事件」で殉職した2名の警察官の碑（山縣内務大臣の碑文）が建立されています。

ここから、約5分で秩父鉄道・御花畑駅。15時10分頃当駅に到着、約3時間強の行程でした。ここで解散。この後、有志で西武秩父駅前の居酒屋にて祝杯をあげ大いに盛り上がりました。

(菊池正美)

西東京会

■第33回イベント「寄席・落語観賞会」

(8月22日 参加者41名)

西東京会の恒例イベント「寄席・落語観賞会」は6回目を迎え、今回

は過去最多の41名が参加され「上野鈴本演芸場」で開催致しました。鈴本演芸場の歴史は、安政4年（1857年）上野広小路にできた講釈場（軍談席本牧亭）が鈴本の母体で、現存する寄席の中で最古の歴史があります。

座席285席は満席の盛況で、お客さんの中には九州、四国、静岡から来られた方もおり、昨今の寄席・落語人気が伺えました。昼の部は12時半開演で当日の演目は、落語9席に加え漫才、紙切り、音曲漫才、奇術、曲芸が次々と演じられ、噺家の巧みな語り、鮮やかな奇術、曲芸に大きな拍手が湧き盛り上がりました。



開演前の様子



上野鈴本演芸場前の様子

トリを務めた三遊亭武蔵師匠は大相撲出身とあって、立派な体格に加え声量もあり迫力満点で囁も大変面白く大いに湧きました。「笑う門には福来る」参加者の皆さんも満喫された事でしょう。中入りを挟み終演の16時半まで熱気と笑いに包まれ伝統芸能を堪能したひと時でした。

引き続き10数名で懇親会が行われ大いに盛り上がり楽しい1日となりました。

(塩山哲郎)

■第35回イベント「秋川の紅葉と古刹・広徳寺を訪ねる」

(11月14日 参加者17名)

今年の多摩の紅葉の見ごろはいつだろうと、色々予測致しましたが、「お天気にさえ恵まれればよし！」

を渡って、秋川の右岸に沿って広徳寺を目指しました。パーベキュー用テントに、夏・秋の賑わいの名残をとどめる秋川橋河川公園を経て、14時、広徳寺に到着しました。山門前の案内板には「臨濟宗龍角山広徳寺は、応安6年(1373年)正応長者の開基で、またその妻、龍智智雲尼が鎌倉の建長寺七〇世である心源希徹禅師を請うて開山……」とあります。

苔むした境内には静謐な空気が漂い、見事な大イチョウを眺

とし、11月14日とその日と定めました。結果は、いっつ降り出してもおかしくない空模様の中、JR五日市線の「武蔵五日市」駅前を13時に出発、檜原街道から、ほどなく脇道に入り、秋川橋

めながら40分ほど休息……川沿いの道に戻って、道を先に進み、佳月橋を渡り右折、川下方向に反転して駅に向かいました。15時、阿伎留神社(「延喜式」神名帳に武蔵国多摩郡8座の筆頭に記載……)に参拝後、流れ解散としました。11名が駅近くのそばや「金巴楼」にて懇親会を催し散会致しました。最後に気が付いてみれば、雨が降ったのは、懇親会の間だけという幸運に、一同、日ごろの行いが良いからと妙に納得して帰途につきました。

(今野雅隆)



古刹 広徳寺前にて



「何でも見てやろう」の精神で

広島支部（社会見学会代表世話人） 新延伸雄

「何でも見てやろう」という小田実(まこと)

の著作がベストセラーとなった1960年、若き小田がアメリカを旅した時の旅行記であるが、この時の体験が後の「ベ平連」活動等、彼の思想的原点となったことは良く知られているところである。そしてその根幹を成すのが旺盛な好奇心と豊かな感受性、まさに若さの特権と言って

良いものである。しかしながら高齢の域に達した我々に当時の小田のようなバイタリティを持つのは無理としても、少なくともメンタルな部分で旺盛な好奇心と豊かな感受性を持ち続けるこ

とは十分に可能である。そう、「なんでも見てやろう」の精神にこそ若さを保ち続ける秘訣があるのではなからうか。

我々、社会見学会は平成5年11月、第1回を開催以来、足掛け25年、今年度末で94回目の開催を迎えることになるが、この基本コンセプトを大切にしつつ、これからも以下の合

- 言葉のもと、バランス良く見学先の開拓を進めて行きたいと思っている。
- 一、最新技術に裏打ちされた技術立国日本の今を見に行こう。
 - 二、私たちの日常生活を支える公共インフラの今を見に行こう。
 - 三、私たちの豊かな食生活を支える農業・水畜産の今を見に行こう。
 - 四、長い歴史に育まれ地域と共に歩む伝統文化の今を見に行こう。

これからの社会見学会に乞うご期待を！



造幣局広島支局



広島市民球場



三隅発電所



盲導犬島根あさひ訓練センター

第30回損保OBの集い（平成29年9月16日 参加112名）於損保会館

特別講演 『日中国交正常化45周年に思うこと…アジアの平和構築…』

一般財団法人 国際協力推進協会理事長
元中華人民共和国特命全權大使

佐藤 嘉恭



佐藤嘉恭氏

今回は、第30回記念講演会となり、多くの皆様にご参加頂きました。講師には、元中華人民共和国特命全權大使佐藤嘉恭氏をお迎えし、以下のように貴重なご講演をいただきました。

（損保マチュリティ懇話会会長 竹内啓介）

■中国との接点 1965年にインドネシアのジャカルタでアジア・アフリカ会議が開催された。私は日本政府代表川島正二郎氏の率いる代表団の一員として参加する機会を与えられ、スカルノ大統領の仲介で実現した川島・周恩来による日中会談に通訳として立ち会うこととなった。これが中国との接点の始まりである。その会談で周首相は「日中関係を重視する」「青少年交流が必要」と強調されたが、この基本は今日の日中関係においても変わらない。その後、ワシントン勤務となり、米国内政政策の情報収集にあたった。在勤中71年には北京で米中共同宣言が締結された。その流れを受けて、同年9月には日中国交正常

化が果たされた。78年には当時の外務大臣大平正義氏のカバン持ちを命ぜられ、その後首相になられた折りに中国側の招請に応じて訪中され、私も同行した。その答礼として戦後初めて中国の首相（華国鋒氏）を国賓としてお迎えした。外務省での最後の勤務は、江沢民時代であったが、不幸なことに歴史教育が国論統一の柱となり、極端なナシヨナリズムが芽生え始めたのは誠に残念であった。

■北朝鮮問題 トランプ政権になってから、大変乱暴な議論が飛び出して戸惑うばかりである。一部識者の間では、米国の武力行使を懸念する声もあるが、米中間においてそれを乗り越えていくだけの対話が行われている。また、日米間では安倍首相を中心に緊密な電話会談が行われており、米国が日中を抜きにして独走することはあり得ない。中国共産党の環球時報では、北朝鮮の核開発は許すことはできないと繰り返し述べている。中朝関係の溝はますます大きくなってきていると思われる。

■第19回共産党大会後の中国 党大会終了後はさらに習近平体制が強固になると予想される。国論統一の政策課題として汚職追放を選んだのは権力闘争のベテランの姿ではなからうか。大国をまとめていくには強い政権でないと政策が絞り切れない。中国は安保理事会の常任理事国という立場から既存の国際秩序を前提としながら、経済力の発展を背景に自国の考えを主張し、国連のまだ持っていないところを補足していく、そういう政策を採っていると私は見ている。日本はこういう政権を相手に思い切った日中関係の構築をしていくことが重要である。

■結び 中国ほど今の国際経済や自由な貿易投資によって恩恵を受けている国はない。大国となった中国を包囲するような政策はもう古典的な政策と言わざるを得ない。日中関係の一層の発展は日本のみならず、日米関係上も必要である。日中国交正常化45周年を迎え、アジアの平和構築を念願してやまない。

（抄録／石井 憲）

法人・団体 会員名簿

(平成30年1月20日現在)

株式会社イトーヨーカ堂	株式会社千葉興業銀行	株式会社ベネフィット・ワン
AIG損害保険株式会社	株式会社千代田セレモニー	文唱堂印刷株式会社
片倉工業株式会社	東京海上日動火災保険株式会社	丸大食品株式会社
共栄火災海上保険株式会社	東京建物株式会社	丸紅株式会社
株式会社グリーンホスピタリティーマネジメント	トリア再保険株式会社	みずほ信託銀行株式会社
五洋建設株式会社	トキワ印刷株式会社	株式会社みずほフィナンシャルグループ
JFEスチール株式会社	西松建設株式会社	株式会社ミツウロコグループホールディングス
損害保険ジャパン日本興亜株式会社	日本カーボン株式会社	安田不動産株式会社
株式会社第一興商	一般社団法人日本損害保険協会	株式会社リサ・パートナーズ
大和証券株式会社	ヒューリック株式会社	(五〇音順)
宝酒造株式会社	芙蓉総合リース株式会社	



◀ SL「やまぐち号」

寺田 耕三 (広島支部)

四季折々の彩りの中を運行する「SL やまぐち」号。津和野郊外の大銀杏の下を駆け抜けていくところです。

隅田川風景▶

鈴木新太郎

隅田川には屋形船がよく似合う。
厩橋付近の河岸より



◀ 優勝

小林加代子 (広島支部)

カープのV8がかかった試合で、7回の裏応援の風船飛ばしをしました。全員力が入っています。この後試合に勝ってV8を達成しました。

横瀬棚田▶

馬 和彦

山田の中の一本足の案山子。

